
第2回山口市公共交通委員会
資料

<第二次山口市市民交通計画中間見直し>

令和5年8月31日（木）

目次

1 第1回委員会の振り返り	
(1) 策定スケジュールと前回会議の内容	1
(2) 前回会議での主な発言	2
2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）	
(1) アンケート調査の概要	4
(2) アンケート回答者の属性	5
(3) 集計結果	
公共交通機関の便利さ	6
路線バスに関するもの	7
鉄道に関するもの	11
タクシーに関するもの	14
公共交通の維持・確保	16
外出状況	18
自動者運転免許の保有状況、移動手段への不安感	20
ダイヤの検索方法	24
交通系ICカードの利用	25
3 推進施策の検討	
(1) 市民交通計画の施策体系	26
(2) 課題と推進施策	27
4 今後の予定	
(1) 策定スケジュール	39

1 第1回委員会の振り返り

(1) 策定スケジュールと前回会議の内容

令和5年度											
R5 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6 1月	2月	3月
	● 第1回 委員会	アンケート調査 →		● 第2回 委員会		● 第3回 委員会		● 第4回 委員会	● 第5回 委員会	パブリック コメント	● 計画策定

第1回山口市公共交通委員会（令和5年5月29日）

1 計画の概要

第二次山口市市民交通計画中間見直しの趣旨
現計画の目的等
他の計画との整合
第二次山口市総合計画後期基本計画との整合
市民交通計画の基本的な方針
市民交通計画の施策体系

2 地域公共交通を取り巻く現状

山口市の人口推計等
市内公共交通の利用者数
公共交通の担い手（運転士）の状況

3 成果指標の推移と目標値

8つの成果指標について確認

4 中間見直しに向けて

過去5年間の取組と社会情勢の変化
今後検討したい取組
策定スケジュール

1 第1回委員会の振り返り

(2) 前回会議での主な発言

第1回山口市公共交通委員会（令和5年5月29日）

1 アンケートについて

- ・ ICカードやシェアサイクル、ぶらやまの認知度や利用経験について問うのはどうか。
→問3(2)、問4(3)、問8、問18の設問で対応しました。
- ・ 10代から40代は、インターネットを利用した回答方法にすることで回収率も上がるのではないかと。
→回答方法にWEB回答を加え、アクセス用のURL(QRコード)を記載しました。
- ・ 「路線バス等を利用されていない理由は何ですか」という設問だけでなく、さらに路線バスを利用するとしたらどのようなことが不安か、または躊躇するのかといった踏み込んだ聞き方をしたほうがいいのか。そうすることで何をすれば利用されるのか具体的な可能性が見えるのではないかと。
→問20、問21のような形で対応しました(鉄道も同様に対応)。

2 交通ネットワークについて

- ・ 鉄道、バス、タクシーを単体で利用する取組ではなく、拠点間の交通と交通手段間の連携を見直すことで、利便性を高める公共交通のネットワークづくりの取組の検討が必要だと思う。
- ・ 市民交通計画のスタンスが、拠点間の交通は交通事業者主体で取り組むということの基本とされており、拠点間の交通についての取組がほとんど想定されていない。
- ・ バスと鉄道を一緒に使えたら、本数は増やさなくても利便性が上がるのではないかと。
→今後検討予定です。

1 第1回委員会の振り返り

(2) 前回会議での主な発言

第1回山口市公共交通委員会（令和5年5月29日）

3 無関心層への意識づけ

- ・現在、公共交通に対する無関心層に、公共交通の存在や施策を知ってもらえるかアプローチをする環境づくりが必要と思う。
- ・これまでは、市民を巻き込み、みんなで公共交通について考え、取り組んできたことで地域に合わせた取組を実施してきたが、公共交通を使わずに済んできた人や無関心層には届かなかったのではないかと。
→今後検討予定です。

4 その他

- ・バスやタクシーの利用率が低いという結果を踏まえて、今後どのくらいまで利用率を上げるのかという明確な方向性を示した上で進めていく必要がある。
- ・高齢者が一番必要としているのは、移動の手段であると考え、高齢者の移動を中心とした施策に取り組む必要がある。
- ・幅広い世代に対して、公共交通の利用促進を促すのではなく、公共交通を特に必要としている高齢者に向けて取組をしていく必要がある。
- ・公共交通のプロモーションのポスターがとても感じがよかったため、一回で終わらせるのではなく、同じテイストで続けることで山口市の優しい公共交通のイメージが浸透していくのではないかと。
→今後検討予定です。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

(1) アンケート調査の概要

前回の委員会で示したアンケート案について、いただいた意見をまとめ、下記のとおり公共交通に関する市民アンケートを実施しました。

この度のアンケート結果(速報版)を前回の結果と比較しながらお示します。

■公共交通に関する市民アンケート調査

調査の対象	山口市内に在住する15歳以上の市民 (無作為抽出)
配布・回収方法	配布:郵便発送 回収:郵便回収またはウェブ回収
調査期間	令和5年7月14日(金) ～令和5年8月4日(金)
調査の対象	総配布数:5,014人 転出などによる事故数:18人 調査対象数:4,996人 有効回答数:1,695人(8月15日現在) 回収率:33.9%(8月15日現在)

公共交通に関する市民アンケート調査

— ご協力をお願い —

平素から市政の発展につきましまして、ご理解とご協力ありがとうございました、ありがとうございます。
本市では、平成30年3月に策定した「第二次山口市公共交通計画」に基づき、地域の皆様や交通事業者と共に、市民ニーズにあった持続可能な公共交通を創り守るため、様々な施策を展開しています。
公共交通は、通勤・通学、買い物などの日常生活における移動手段として必要不可欠なものです。また、現在、車で移動されている、高齢になり車の運転が不安になった機会を考えると、自動車に代わり公共交通を確保していくことが必要です。
そのため、皆様方の日常の外出や公共交通の利用意向などについてご意見を伺いし、この度、市民アンケート調査を実施し、今後の公共交通を考へていく上で貴重な調査となりますので、お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の推進をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和5年7月
山口市長 伊 藤 和 貴

なお、本調査は、令和5年6月1日現在、山口市にお住まいの15歳以上の市民、若しくは、1000人を無作為に選定して実施しております。ご回答いただいた場合は必ず回答者として処理し、調査結果に活用することはありません。また、お取り扱いしているバーコードは、日本郵政製で郵便するためのものであり、他人が持てずるものではありません。

回答方法 以下のいずれかの方法で回答してください。
(所要時間10分程度)

紙の調査票で回答
1ページ以降にご記入ください。
封筒の封筒に入れて投函

スマートフォン等で回答



※QRコードが読み取れない場合は、URL(<https://kotoform.jp/form/XC/m/383781>)を入力してください。

回答期限 令和5年8月4日(金)

◇ご記入にあたってのお願い
◎この調査は、封筒の宛名のご本人に回答をお願いします。事情によりご本人が回答できない場合は、ご家族の方が回答されてもかまいません。
◎ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。
山口市公共交通委員会(事務局:山口市都市整備部交通政策課)
TEL 083-934-2729 FAX 083-934-2959
電子メール kotsu@city.yamaguchi.lg.jp

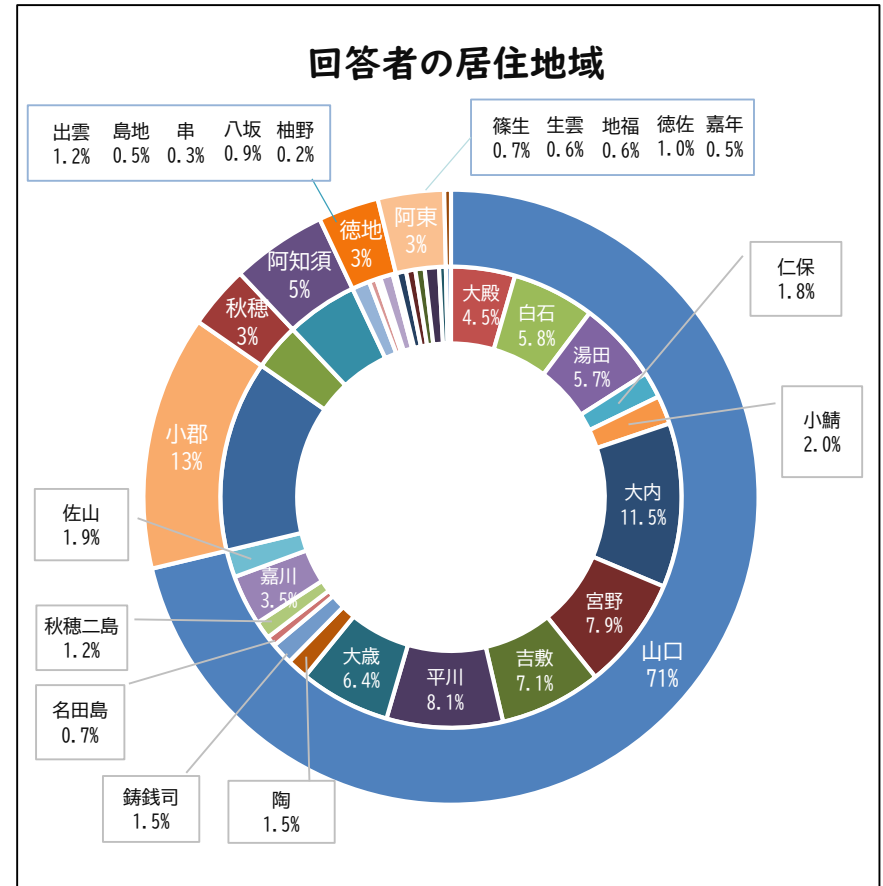
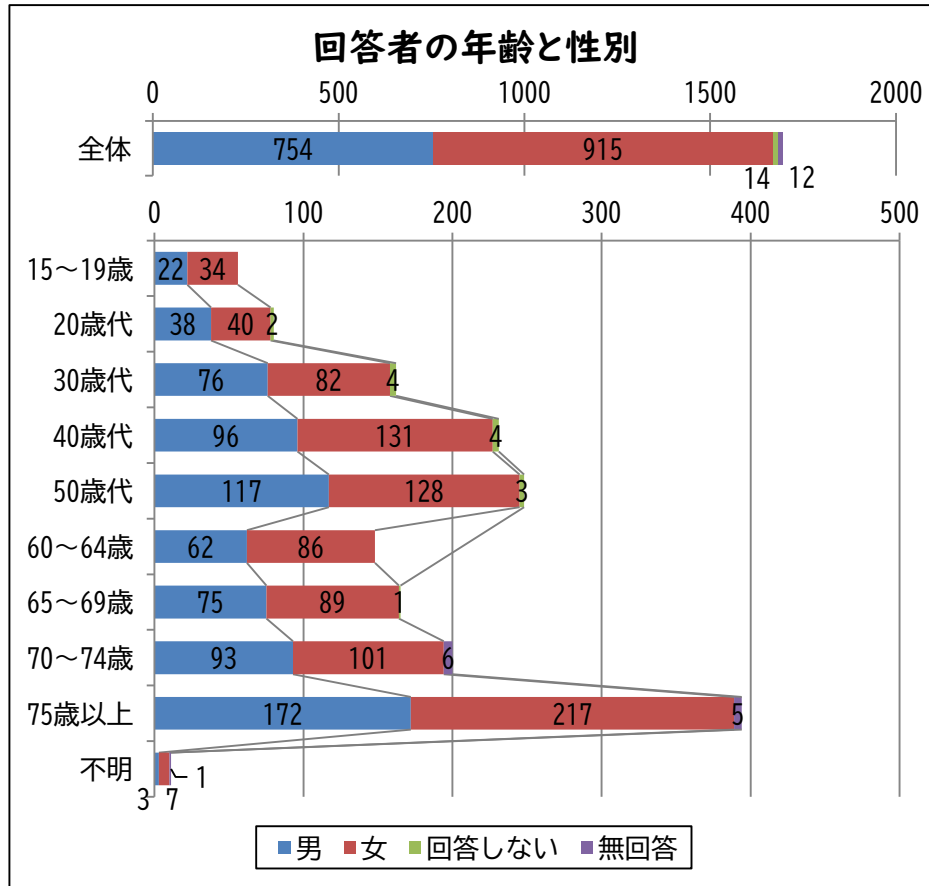


QRコード

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（2）アンケート回答者の属性

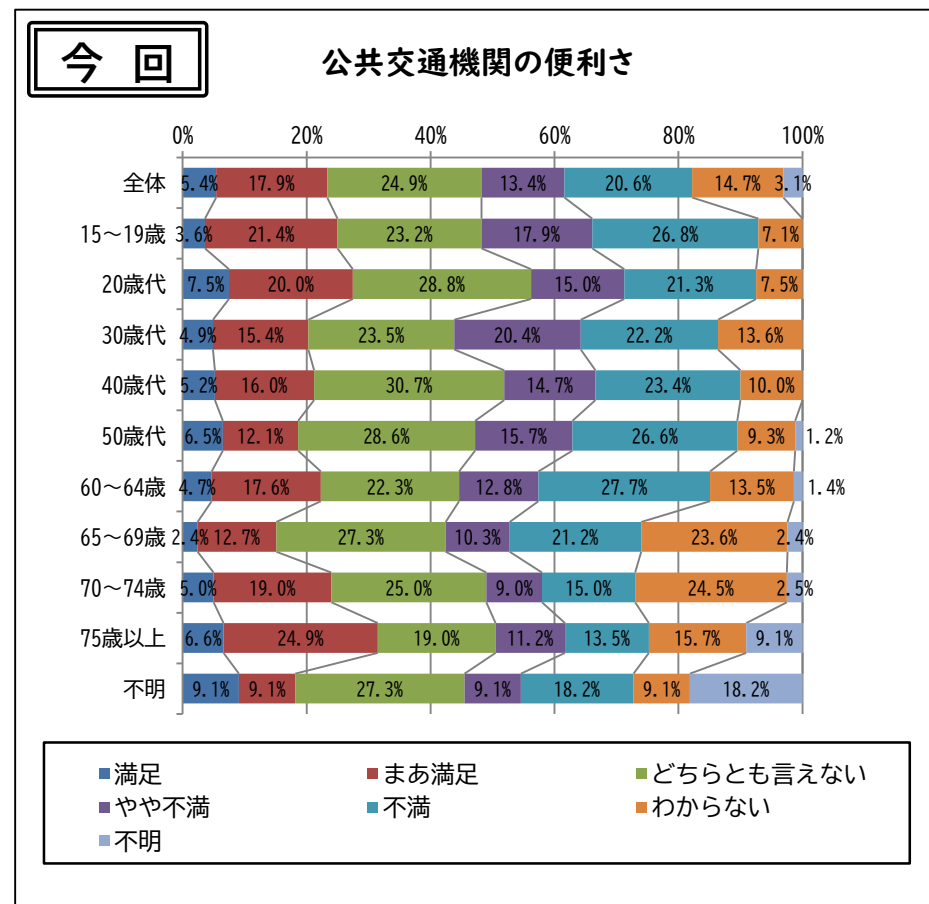
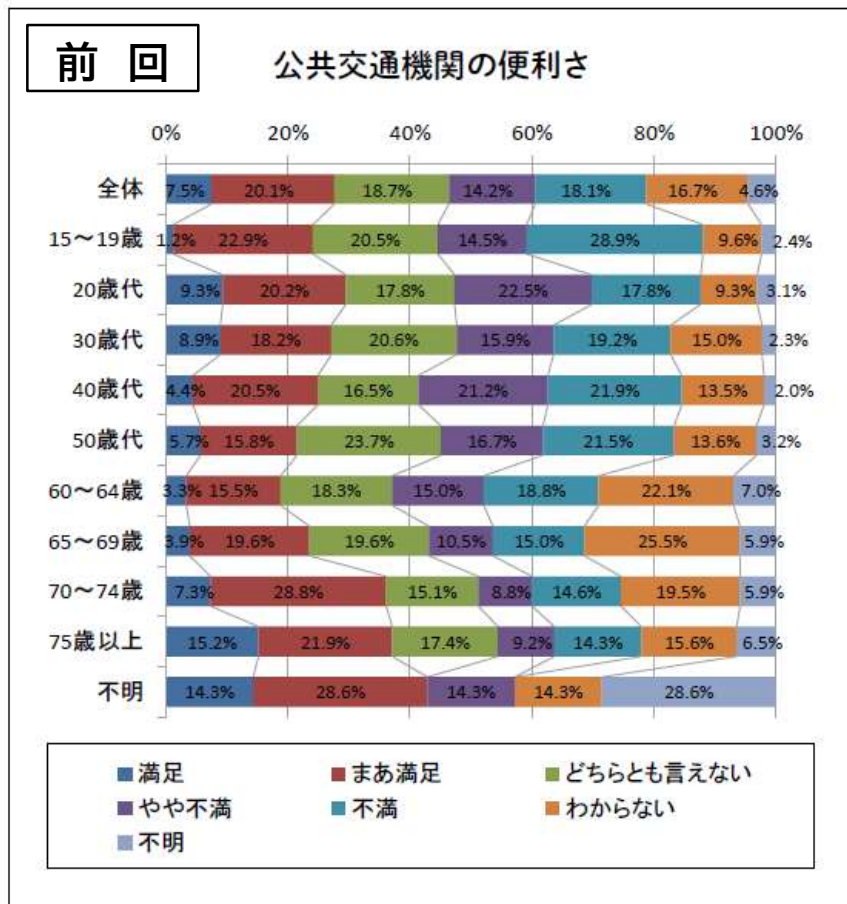
「1 あなた自身のこと」の(1)性別と(2)年齢のクロス集計、(4)お住まいの地域



2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

(3) 集計結果 公共交通機関の便利さについて

問1 「山口市の公共交通の便利さについて、どのように感じていますか。」



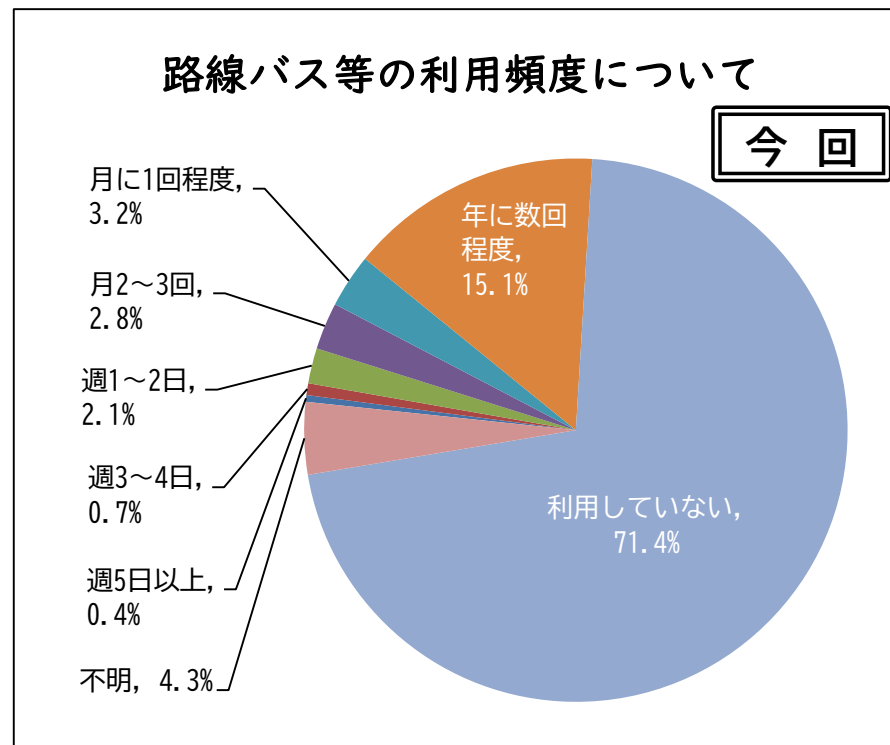
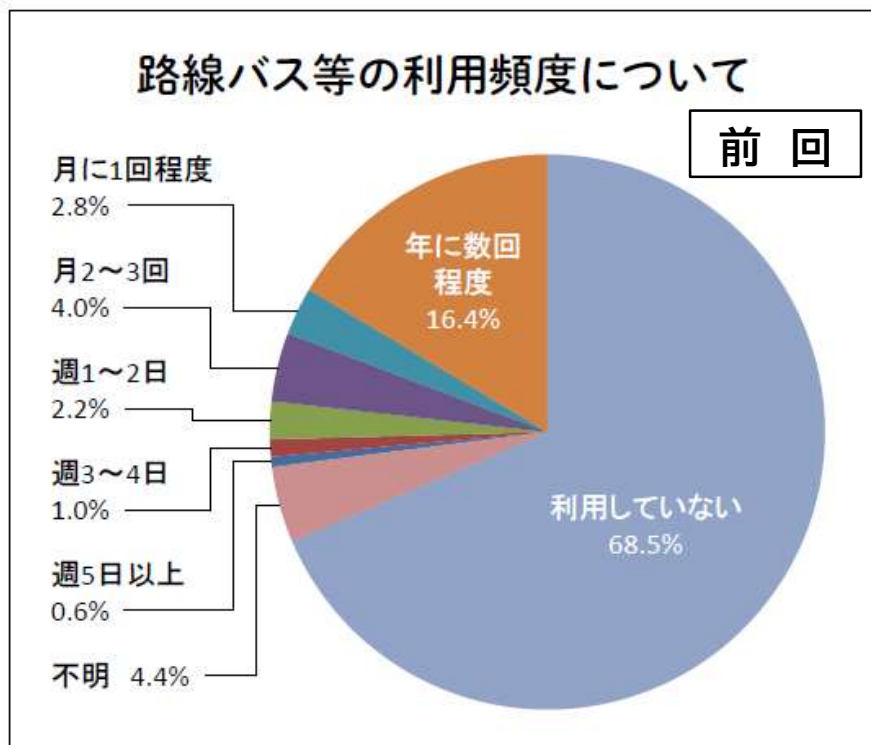
(資料：公共交通に関する市民アンケート調査(平成28年10月))

全体的に「どちらとも言えない」と答えられた方が増えています。70歳から74歳までの「満足」「まあ満足」と答えられた方は、前回から12.1ポイント下がっています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

(3) 集計結果 路線バス等の利用頻度について

問17 「あなたは、普段、路線バス等を利用されていますか。」



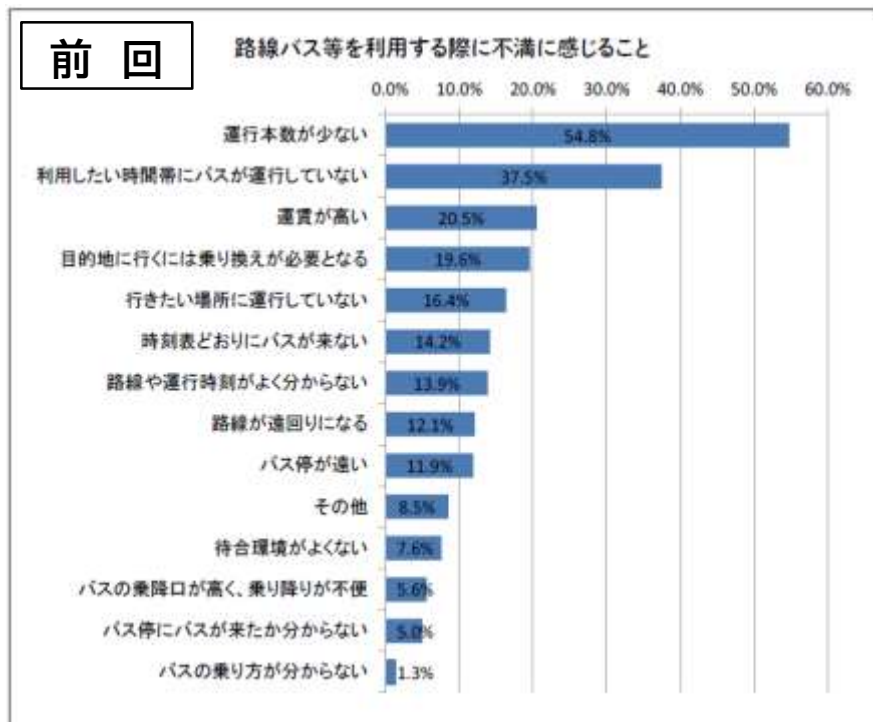
(資料：公共交通に関する市民アンケート調査(平成28年10月))

路線バスの利用頻度については、前回からほとんど変わりありません。「利用していない」と答えられた方が2.9ポイント増加しています。

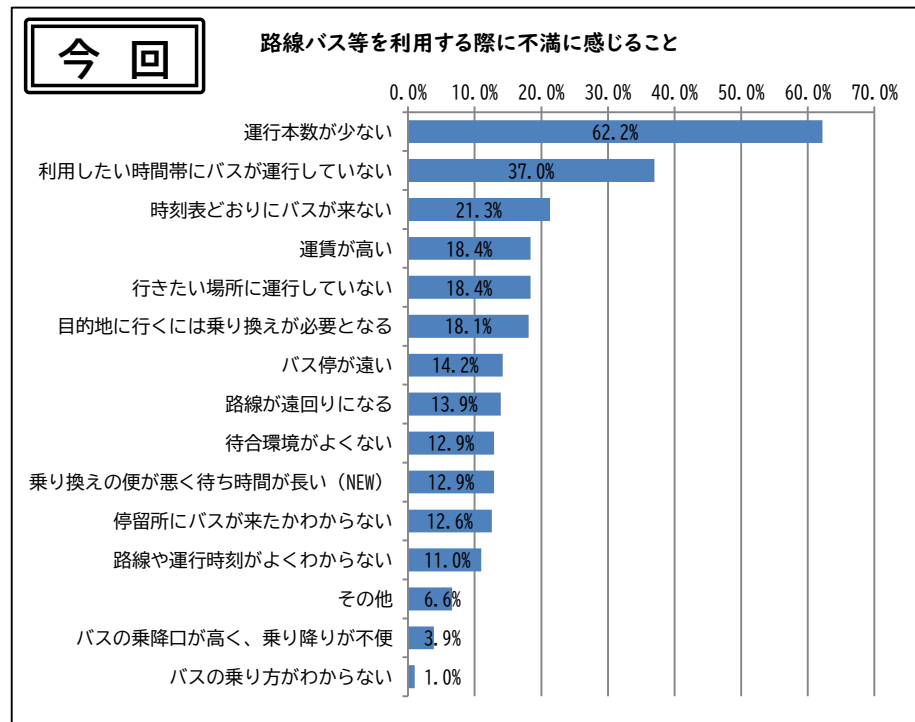
2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 路線バス等を利用する際に不満に感じること

（問17でバスを利用していると回答された方）→問19「路線バス等を利用するにあたって不満に感じることは何ですか。」



（資料：公共交通に関する市民アンケート調査（平成28年10月））

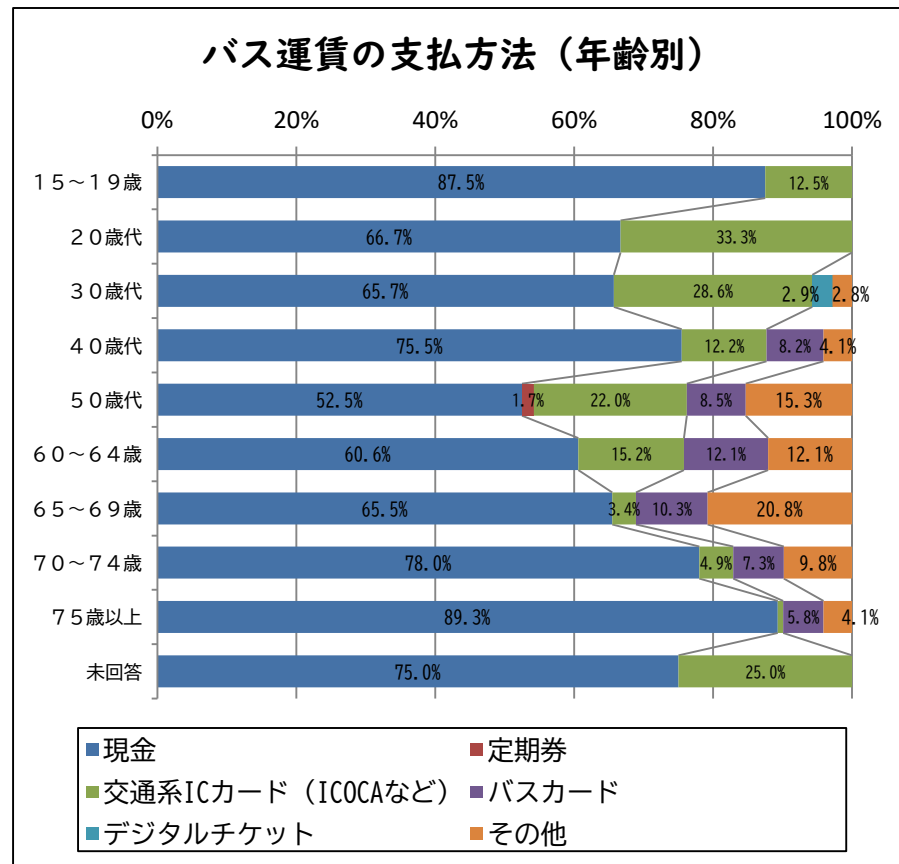
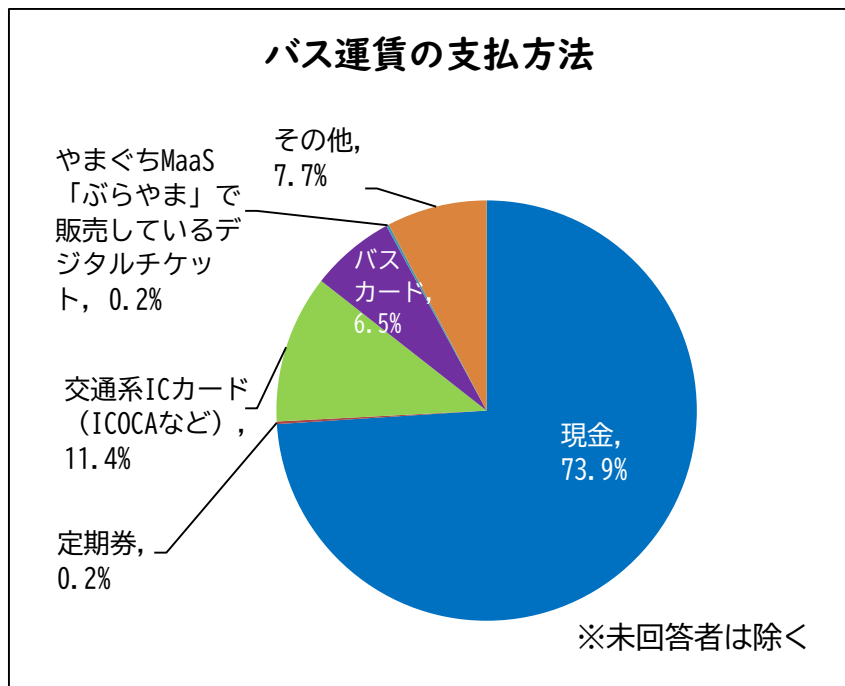


前回と同様、「運行本数や経路」「運行の時間帯」「運賃の高さ」「乗り継ぎの悪さ」への不満が上位を占めています。また、前回と比べると、「バス停までの距離」や「待合環境の悪さ」を不満の原因として挙げられた方が増加しています。一方、「路線や運行時刻がよくわからない」「バスの乗降口が高く、乗り降りが不便」と答えられた方は減少しています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 バス運賃の支払い方法【新規】

（問17でバスを利用していると回答された方）→問18「バスの運賃はどのような方法で支払いますか。」

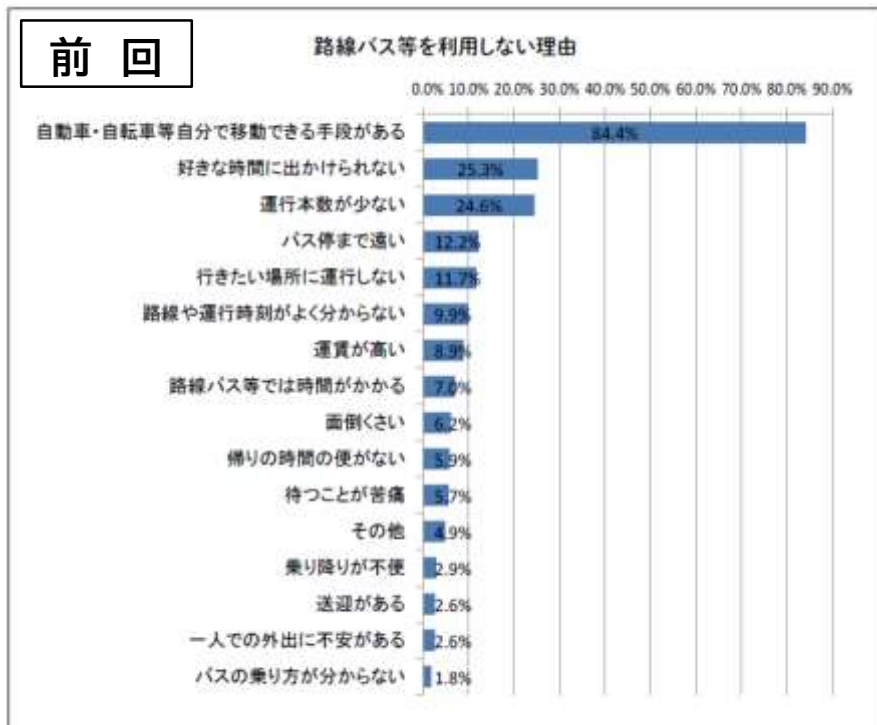


7割以上の方が、バスの運賃を現金で支払われています。年齢別に見ると、20歳未満と75歳以上の方は、現金での支払方法が9割近くとなっています。

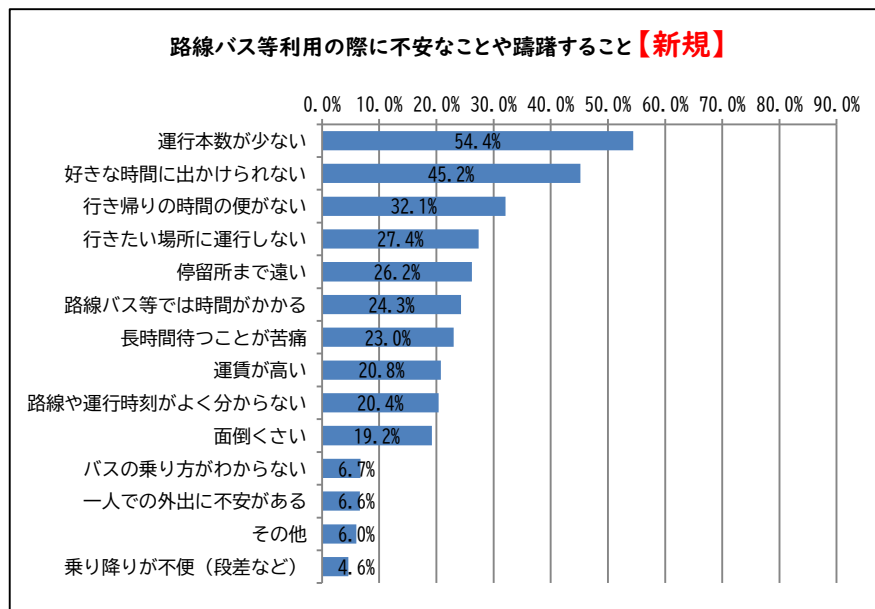
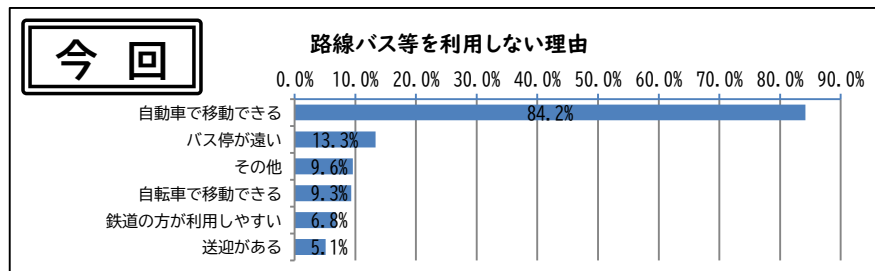
2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 路線バスを利用しない理由

（問17でバスを利用していないと回答された方）→問20「路線バス等を利用されていない理由は何ですか。」、問21「路線バス等を利用されるとしたら、不安なことや躊躇することは何ですか。」



（資料：公共交通に関する市民アンケート調査（平成28年10月））

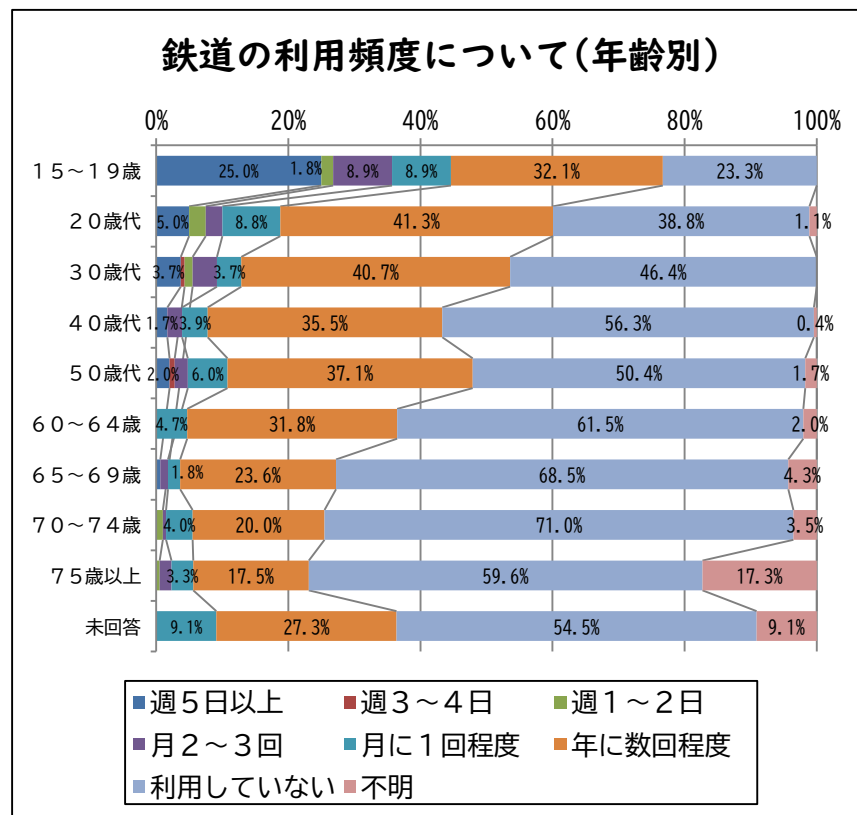
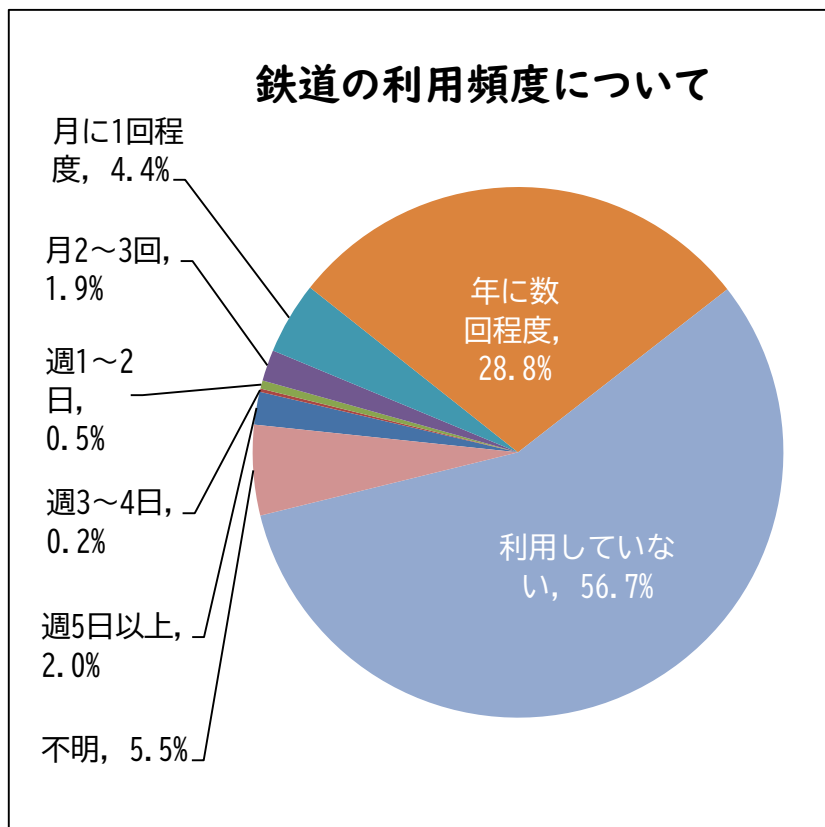


前回と同様、バスを利用していないと答えられた方のうち、「自動車・自転車等で移動できるから」と答えられた方が8割以上を占めています。また、利用の際に不安や躊躇する理由については、「運行本数が少ない」「好きな時間に出かけられない」と答えられた方が上位を占めています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 鉄道の利用頻度について【新規】

問9「あなたは、普段、鉄道を利用されていますか。」

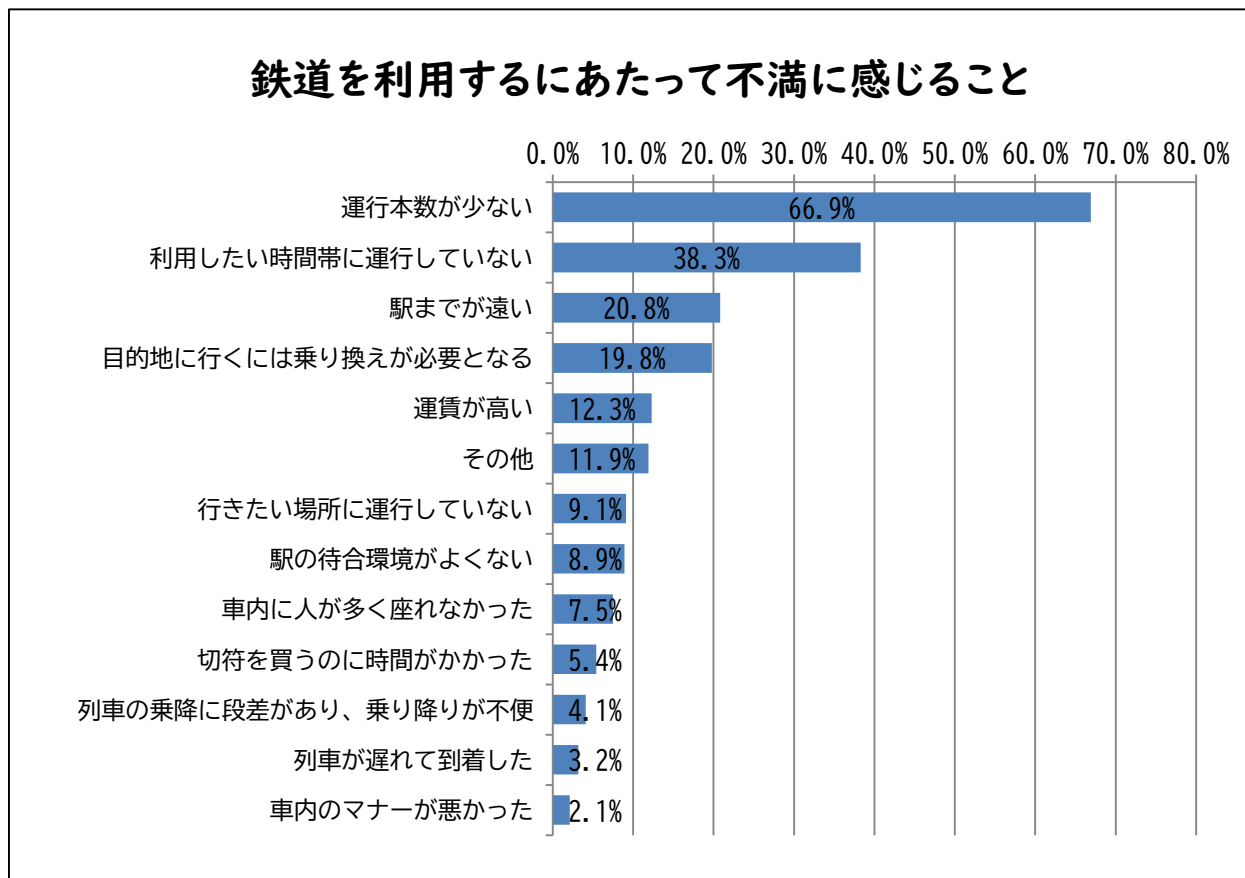


鉄道を「利用していない」と答えられた方が約6割を占めています。年齢別に見ると、15歳から19歳までの利用割合が高くなっています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 鉄道を利用する際に不満に感じること【新規】

（問9で鉄道を利用していると回答された方）→問12「鉄道を利用するにあたって不満に感じることは何ですか。」

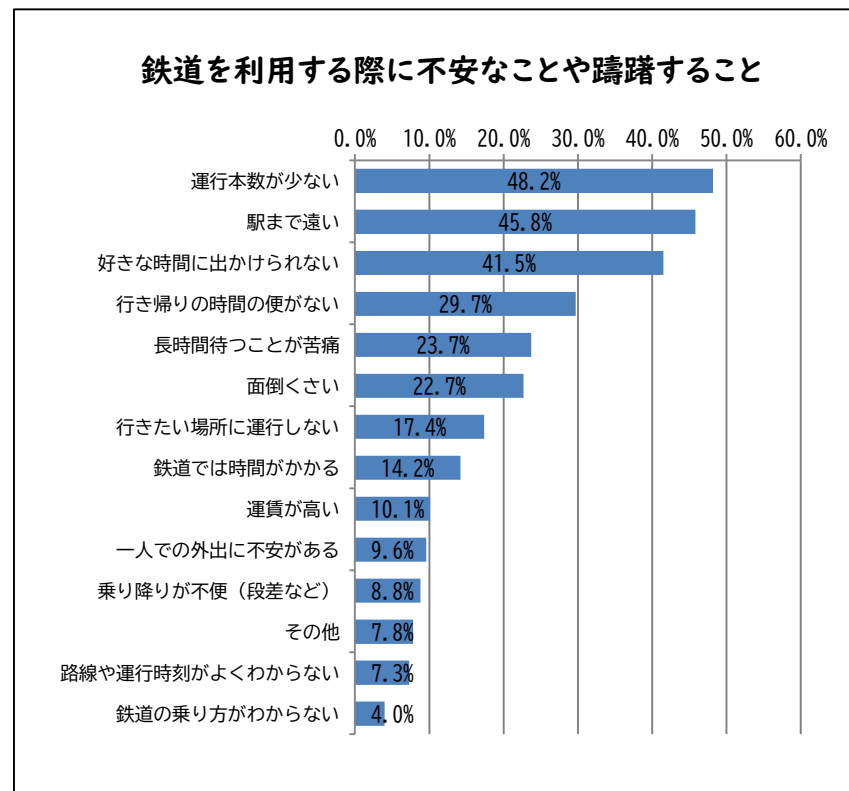
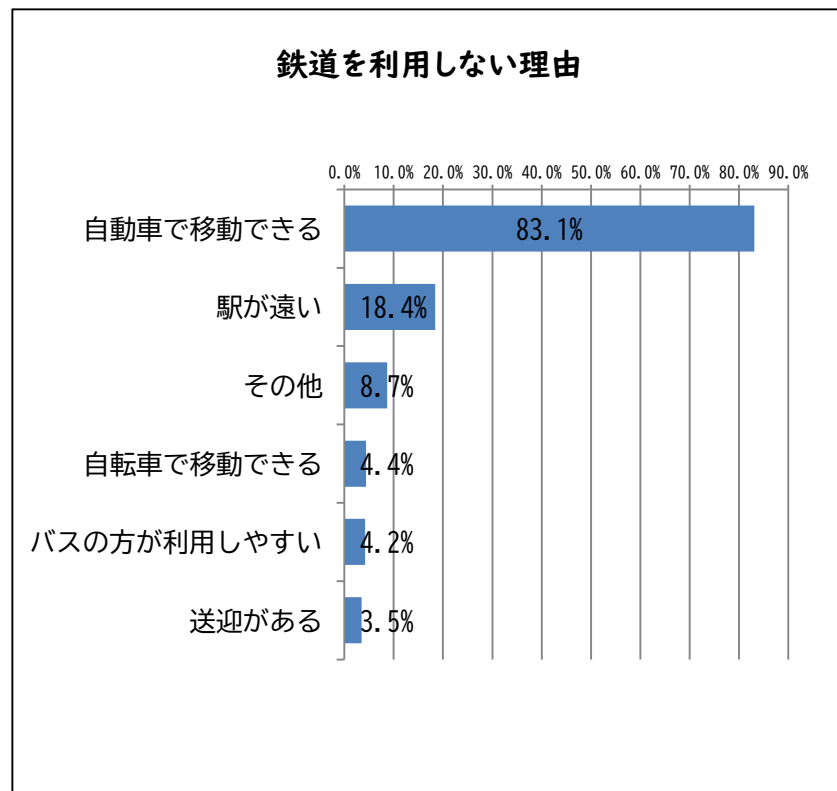


路線バス等と同様に、「運行本数」「運行の時間帯」「運賃の高さ」「乗り継ぎの悪さ」への不満が上位を占めています。加えて、「駅までの遠さ」を理由として挙げた方が2割を超えています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 鉄道を利用しない理由【新規】

（問9で鉄道を利用していないと回答された方）→問13「鉄道を利用されていない理由は何ですか。」、問14「鉄道を利用されるとしたら、不安なことや躊躇することは何ですか。」

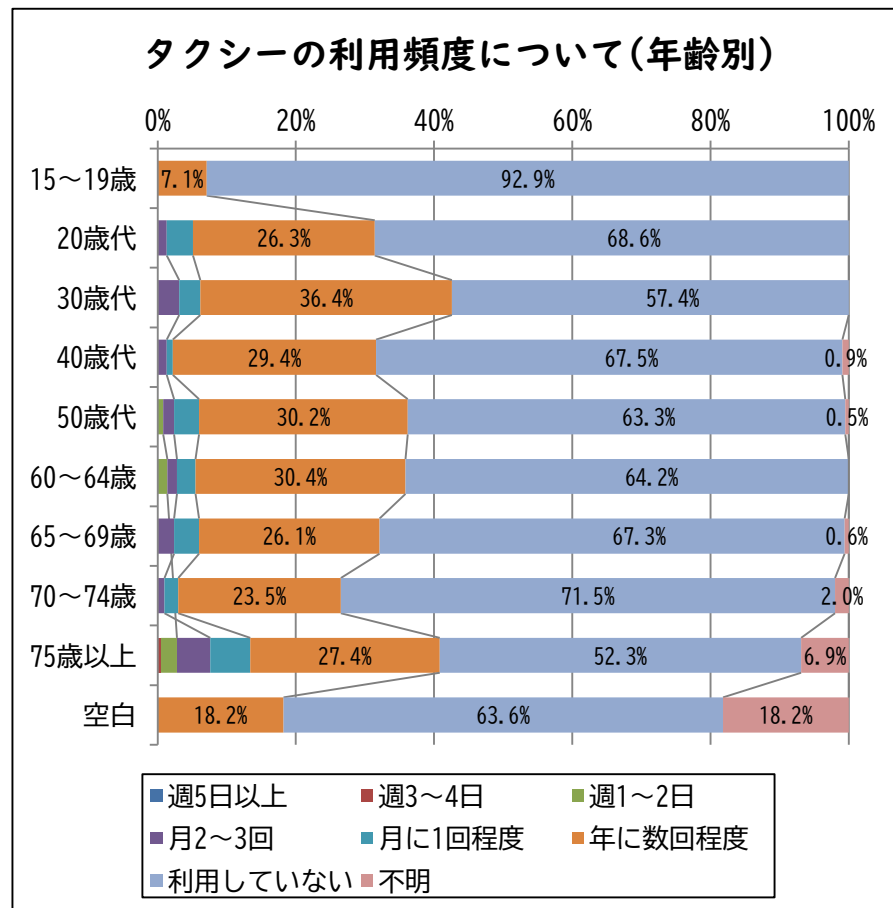
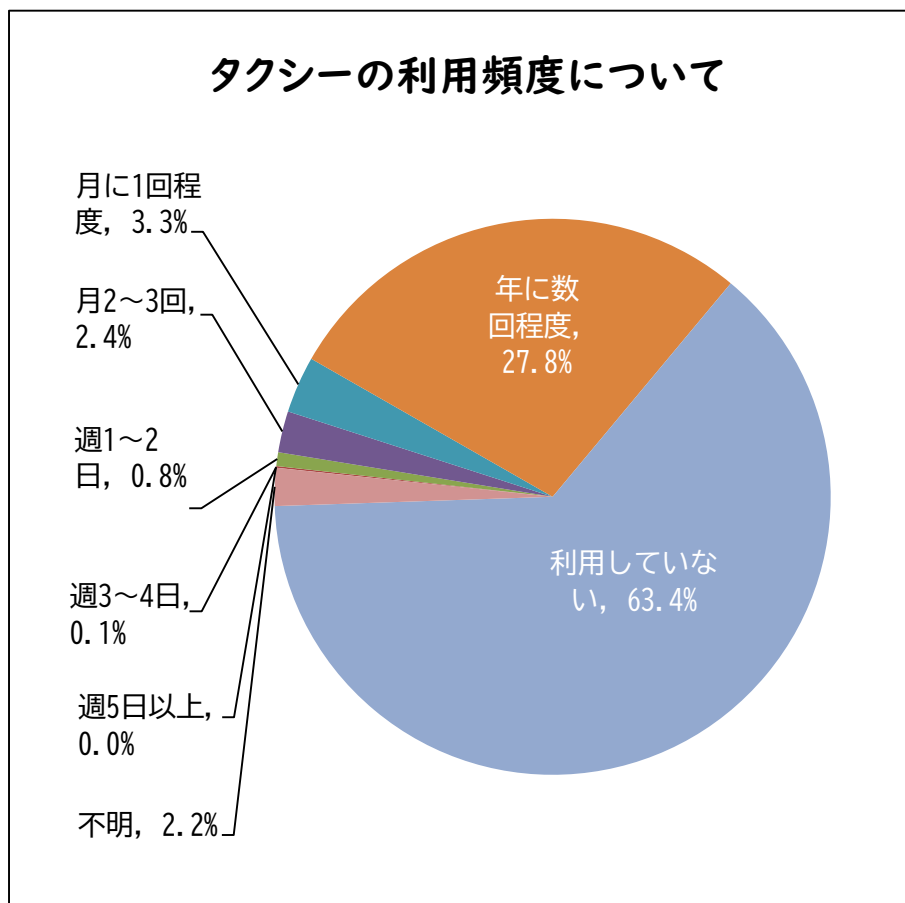


路線バス等と同様に、鉄道を利用しないと答えられた方の理由としては、「自動車・自転車等で移動できる」が8割以上を占めています。また、利用の際に不安や躊躇する理由については、「運行本数が少ない」「駅まで遠い」と答えられた方が上位を占めています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 タクシーの利用頻度について【新規】

問22「あなたは、普段、タクシーを利用されていますか。」

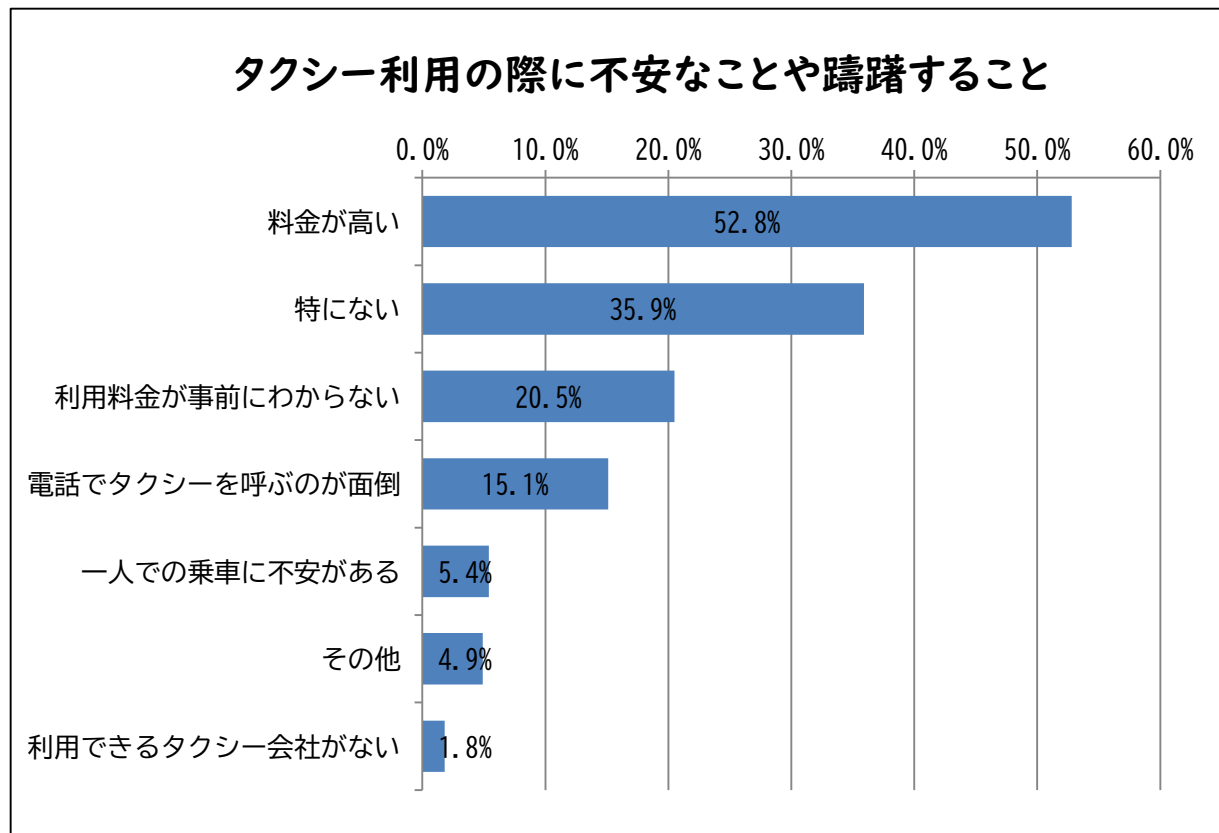


タクシーを「利用していない」と答えられた方が約6割を占めています。年齢別では「年に数回程度」の利用も含めて、30歳代の利用割合が高くなっています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 タクシー利用の際に不安なこと躊躇すること【新規】

問23「タクシーを利用される際に、不安なことや躊躇することはありませんか。」

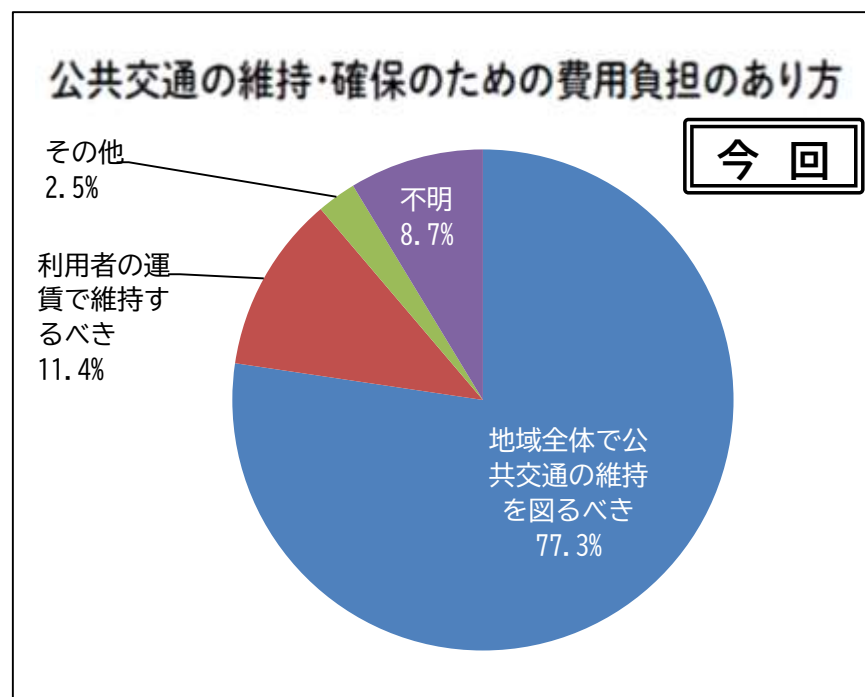
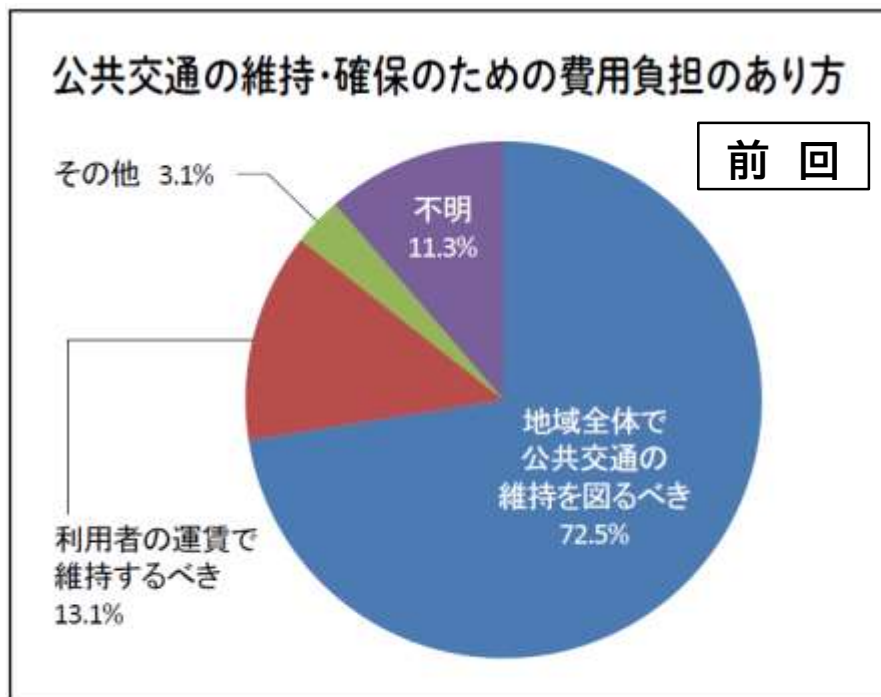


タクシーの利用を躊躇する理由として、半数以上の方が「料金の高さ」を挙げられています。また、「利用料金が事前にわからない」と答えられた方は約20%、「電話でタクシーを呼ぶのが面倒」という方は約15%を占めています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 公共交通の維持・確保のための費用負担のあり方

問26「公共交通を維持・確保するために必要な費用は、どう負担するべきだと思いますか。」



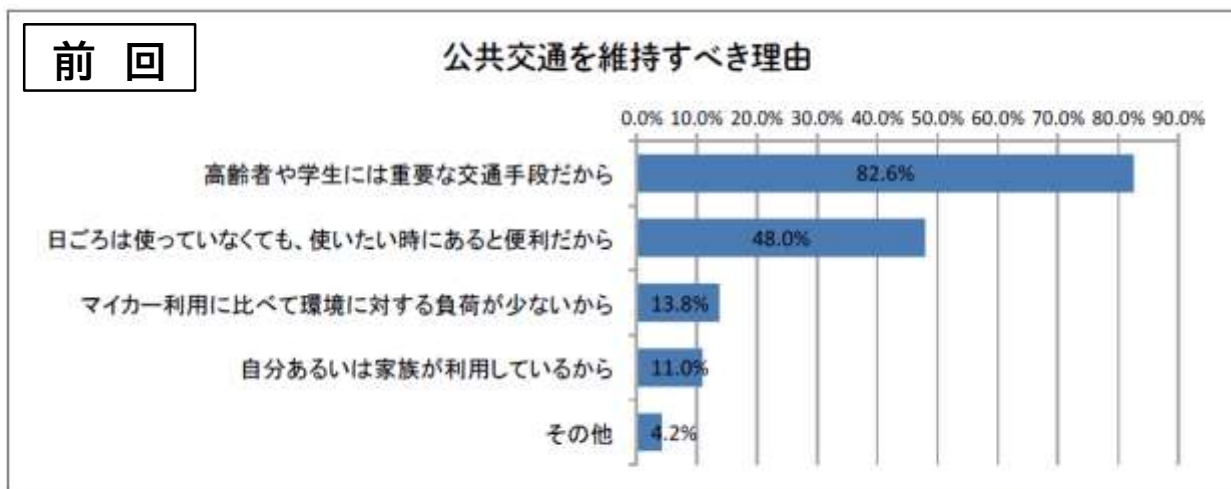
（資料：公共交通に関する市民アンケート調査（平成28年10月））

前回調査と比較すると、「地域全体で公共交通の維持を図るべき」と答えられた方が4.8ポイント増加しました。「利用者の運賃で維持すべき」と答えられた方は1.7ポイント減少しています。

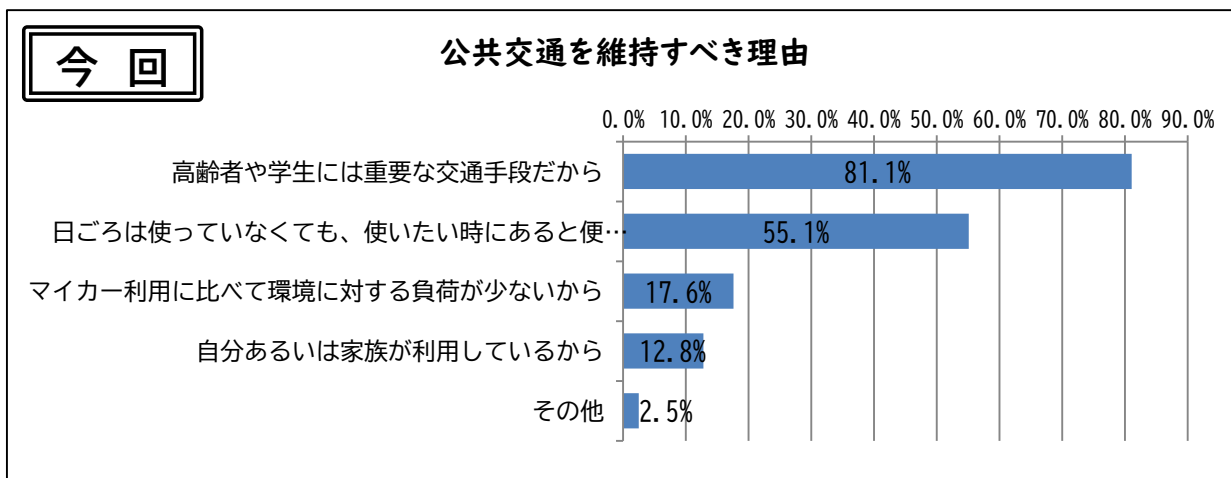
2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 公共交通を維持すべき理由

（問26で地域全体で公共交通を維持すべきと回答された方）→問27「どのような理由で維持すべきだと思いますか。」



（資料：公共交通に関する市民アンケート調査（平成28年10月））

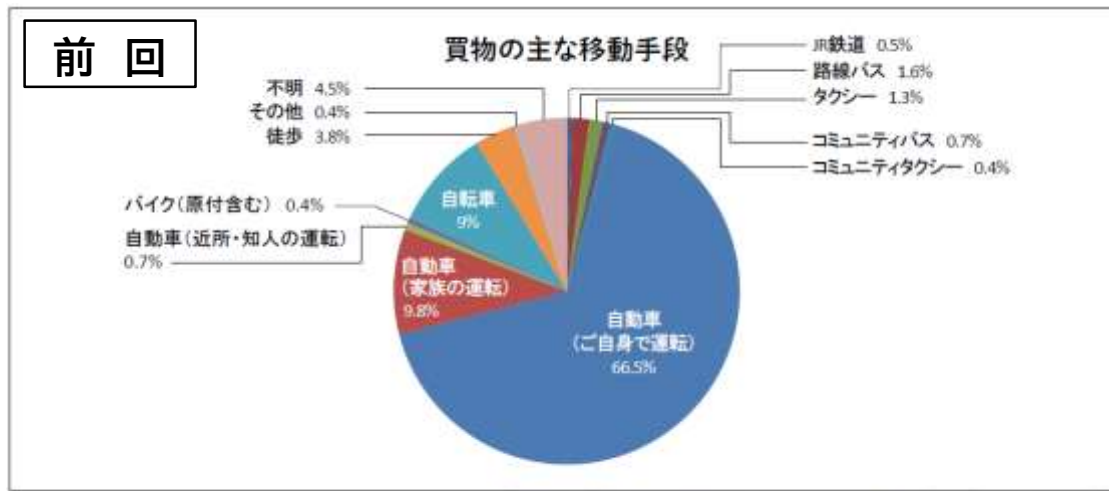


前回調査と同様に、地域全体で公共交通を維持すべき理由については、「高齢者や学生には重要な交通手段だから」と答えられた方は、8割を超えています。「使いたいときにあると便利だから」と答えられた方は、7.1ポイント増加し、5割を超えています。

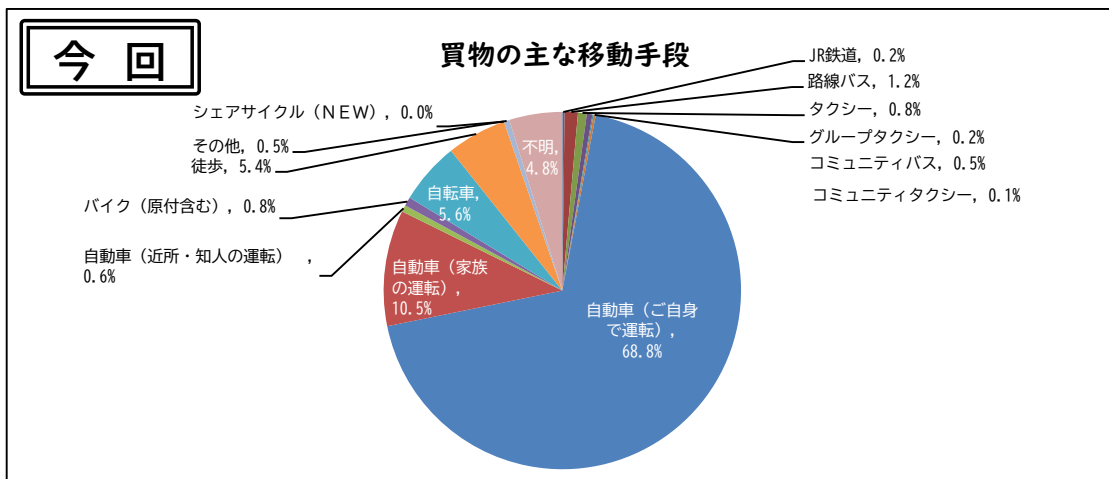
2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 食料品や日用品の買い物のための外出状況

問4「食料品や日用品の買い物の際の、主な移動手段は何ですか。」



（資料：公共交通に関する市民アンケート調査（平成28年10月））

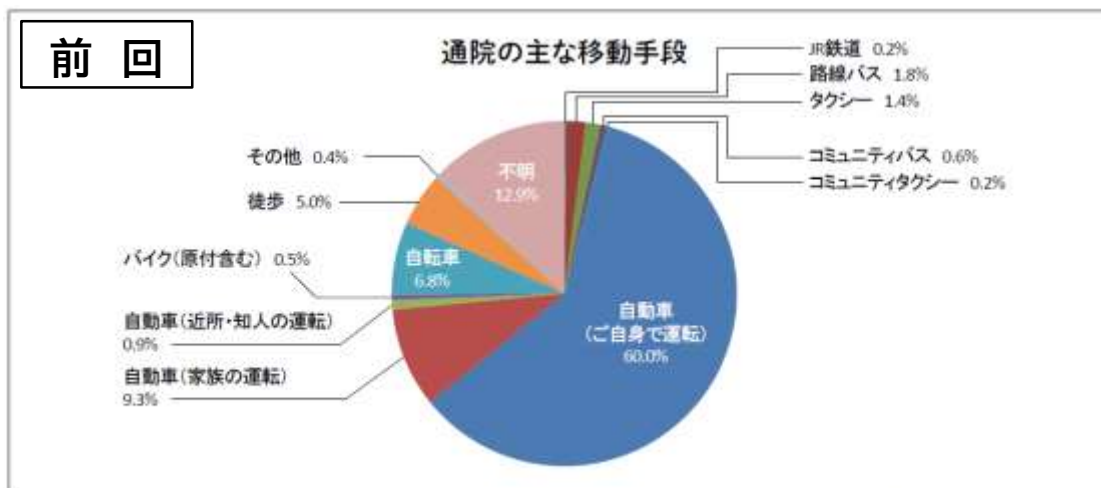


ご自身、家族、近所・知人を含めた「自動車による移動」が合計で約8割を占め、前回調査から2.9ポイント増加しました。

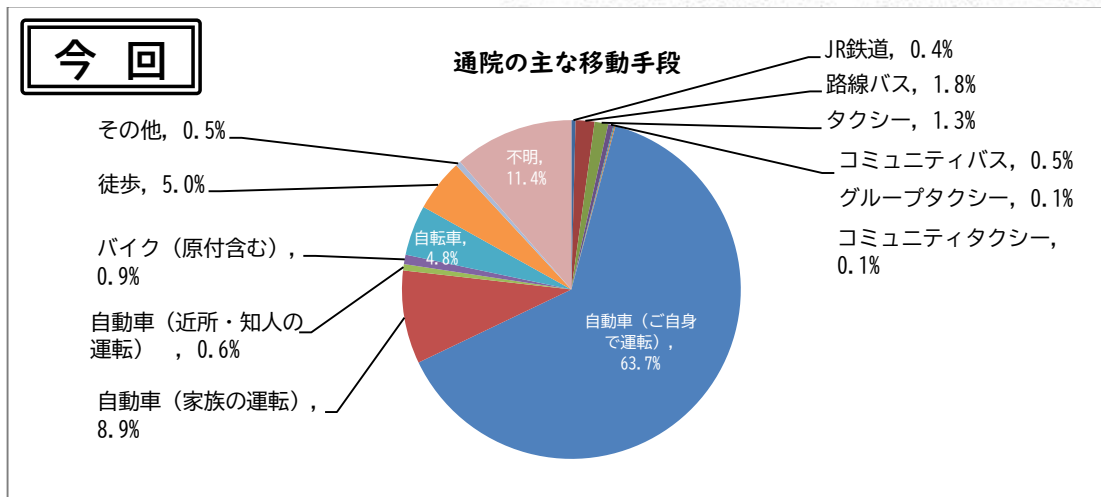
2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 通院のための外出状況

問5「通院の際の、
主な移動手段は何で
すか。」



（資料：公共交通に関する市民アンケート調査（平成28年10月））

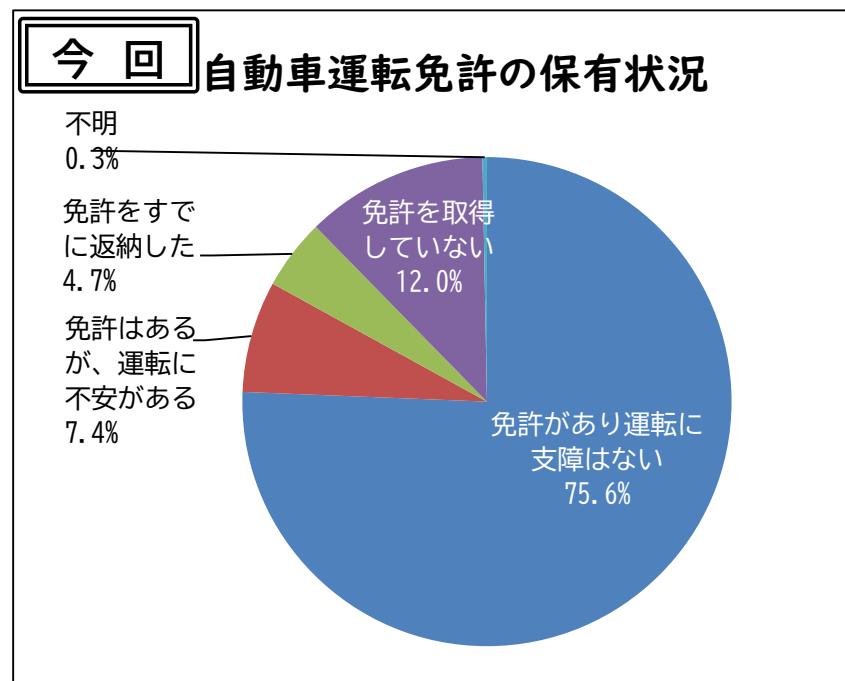
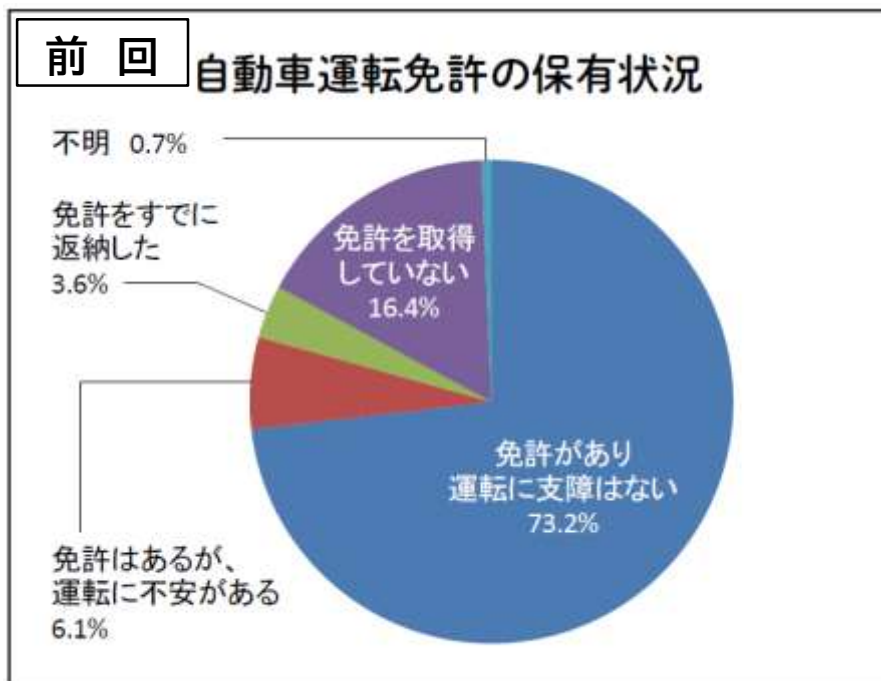


前ページの買物の主な移動手段と同様に、ご自身、家族、近所・知人を含めた「自動車による移動」が合計で73.2%となっており、前回調査から3.0ポイント増加しています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 自動車運転免許の保有状況①

「1 あなた自身のこと」の(6) 自動車運転免許について



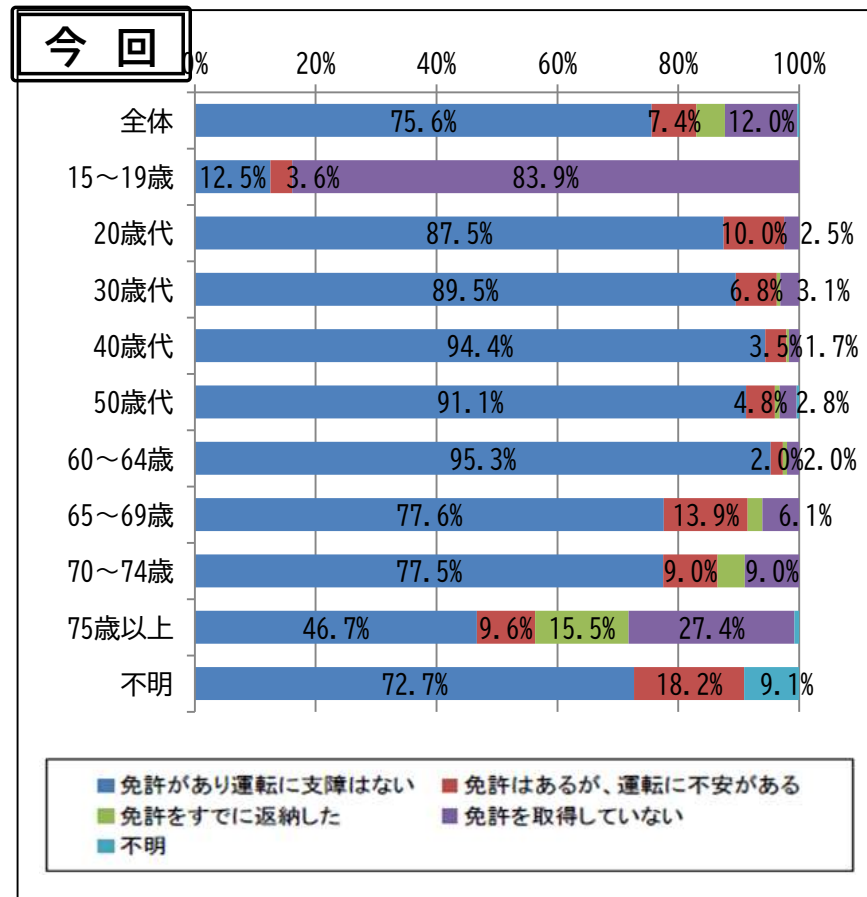
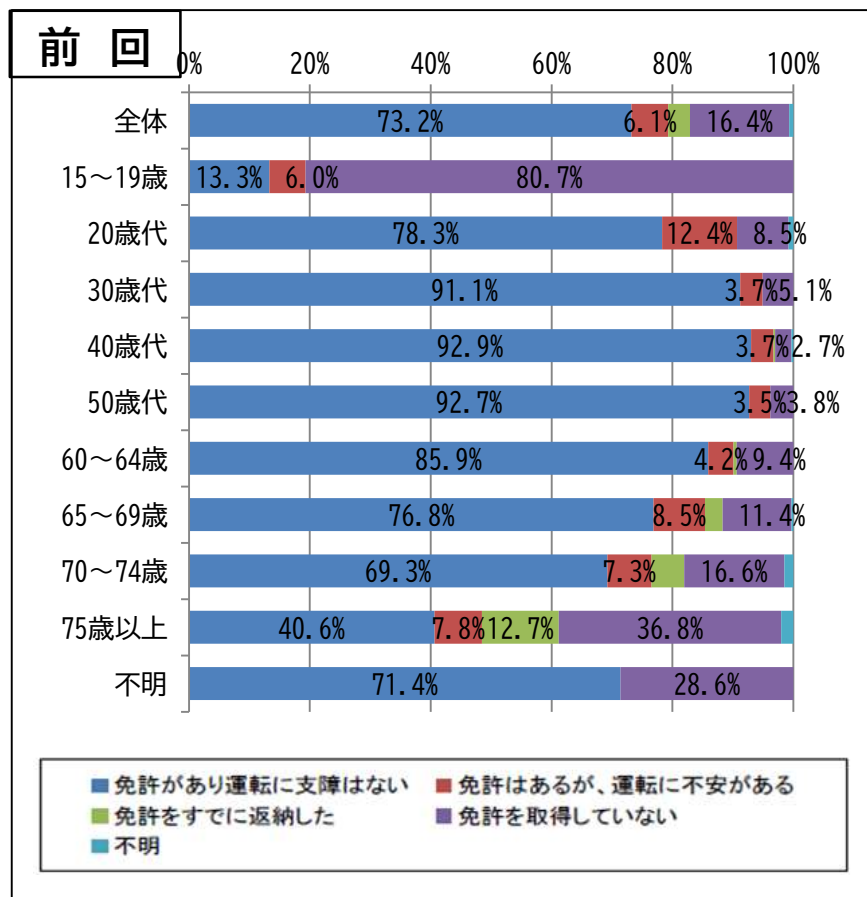
（資料：公共交通に関する市民アンケート調査（平成28年10月））

「免許があり運転に支障はない」と答えられた方の割合が、前回調査から2.4ポイント増加しました。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 自動車運転免許の保有状況②

「1 あなた自身のこと」の(2)年齢と(6)自動車運転免許保有状況のクロス集計



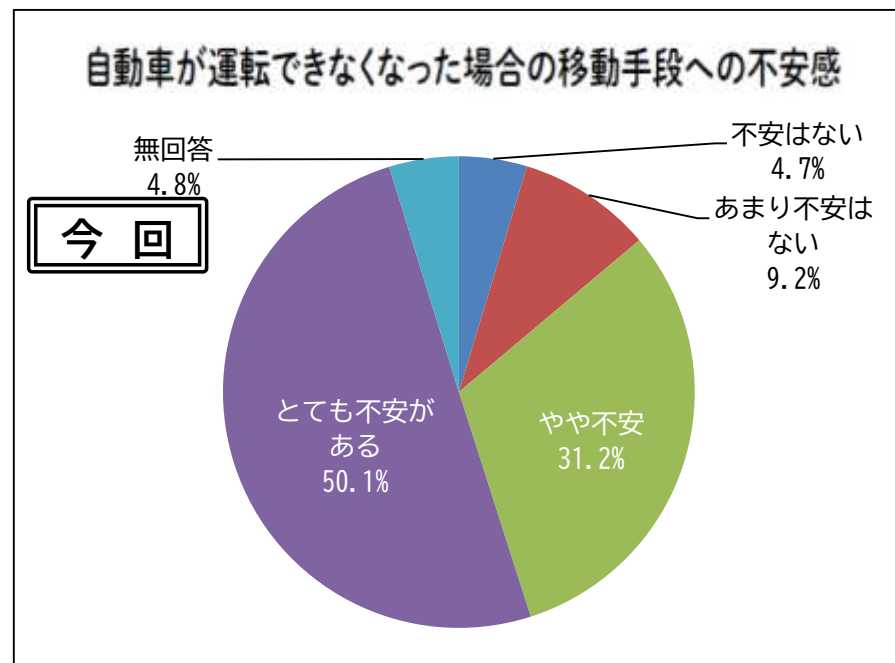
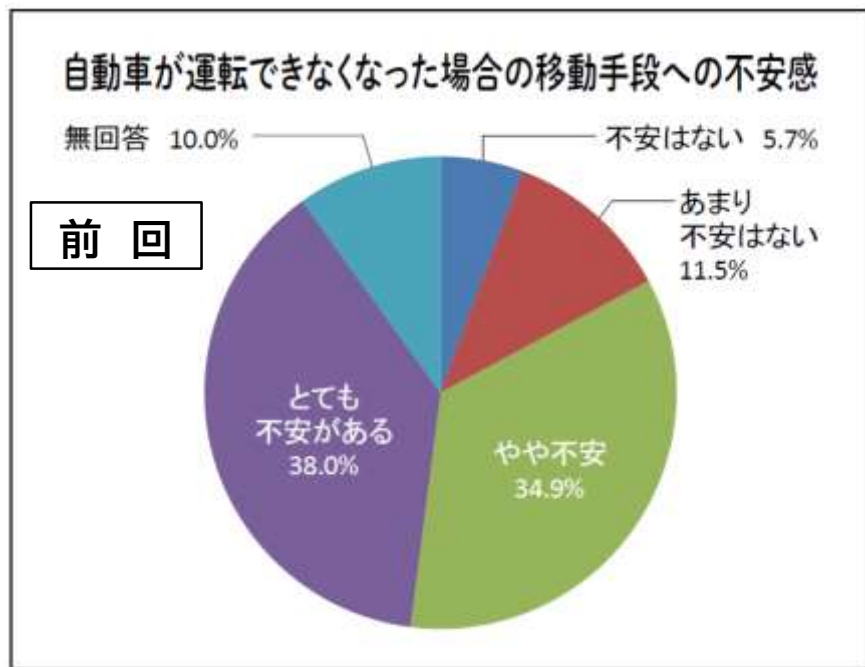
（資料：公共交通に関する市民アンケート調査（平成28年10月））

「免許はあるが、運転に不安がある」と答えられた65歳以上の方が増加しています。また、「免許をすでに返納した」と答えられた75歳以上の方が増加しています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 自動車等が運転できなくなった場合の移動手段への不安感①

問24「自動車やバイク等が運転できなくなった場合、移動手段に不安がありますか。」



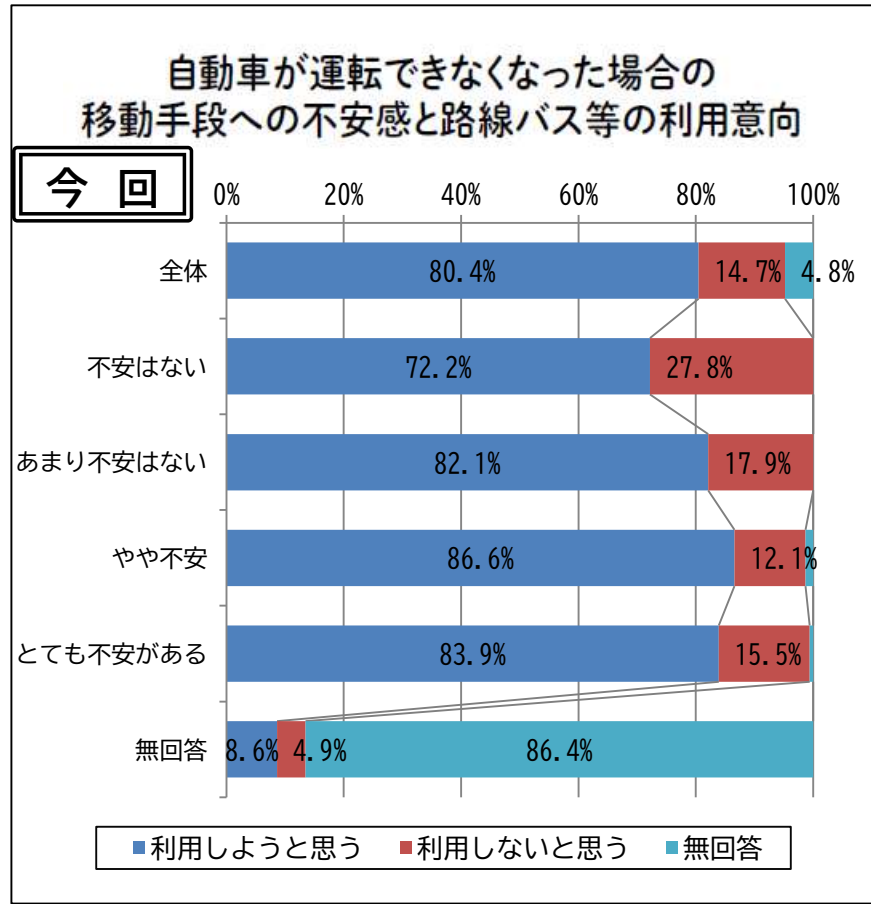
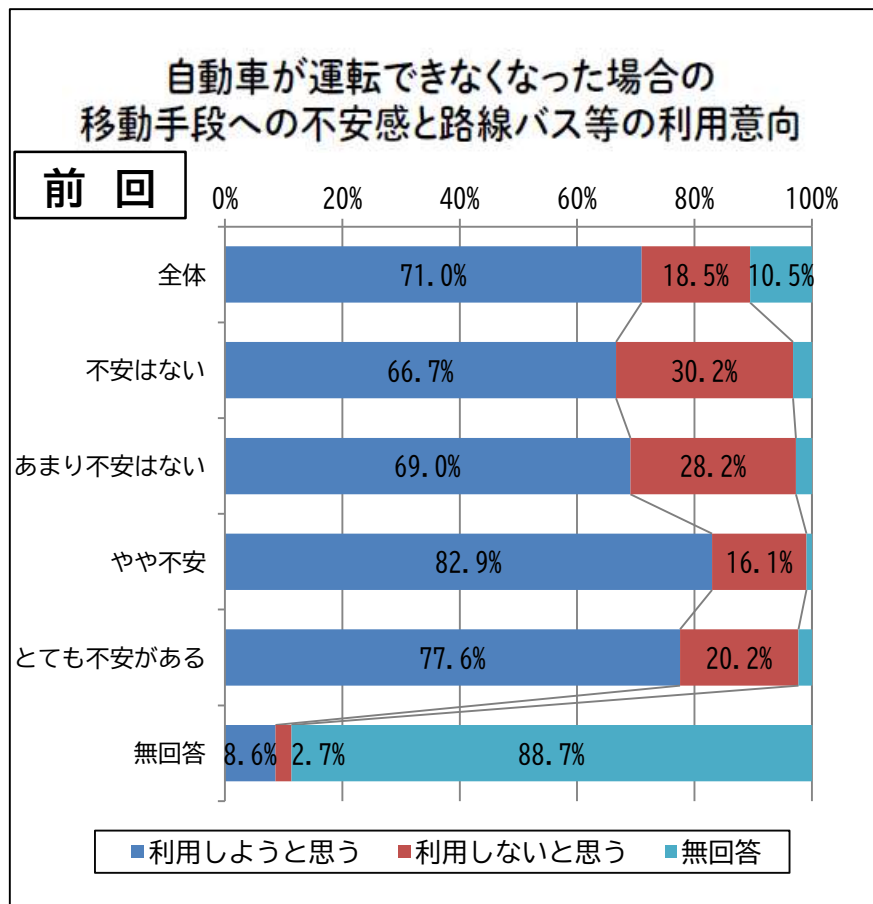
（資料：公共交通に関する市民アンケート調査（平成28年10月））

前回調査と比べて、「とても不安がある」と答えられた方の割合が12.1ポイント増加し、自動車等が運転できなくなった場合の移動手段に対して「とても不安」「やや不安」と感じている方が、全体の約8割を占めています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 自動車等が運転できなくなった場合の移動手段への不安感②

問25「自動車やバイク等の運転が不安になった場合、鉄道や路線バス等を利用しますか。」



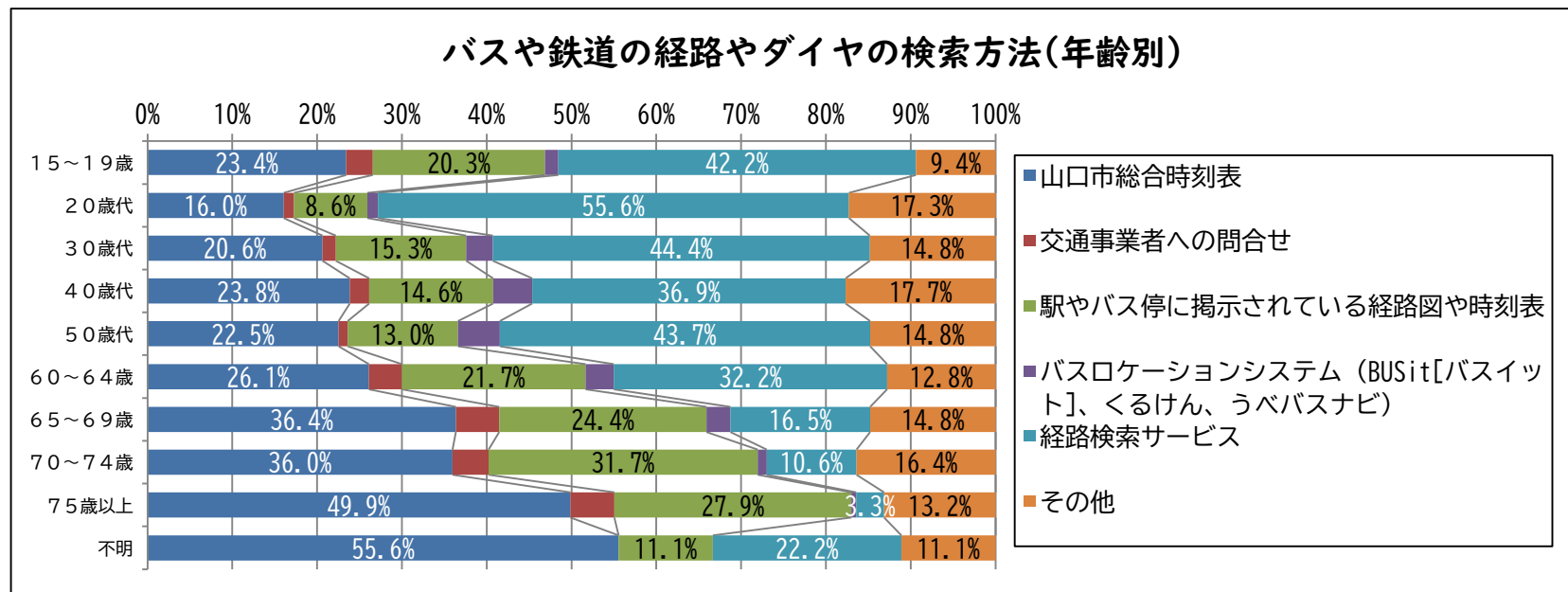
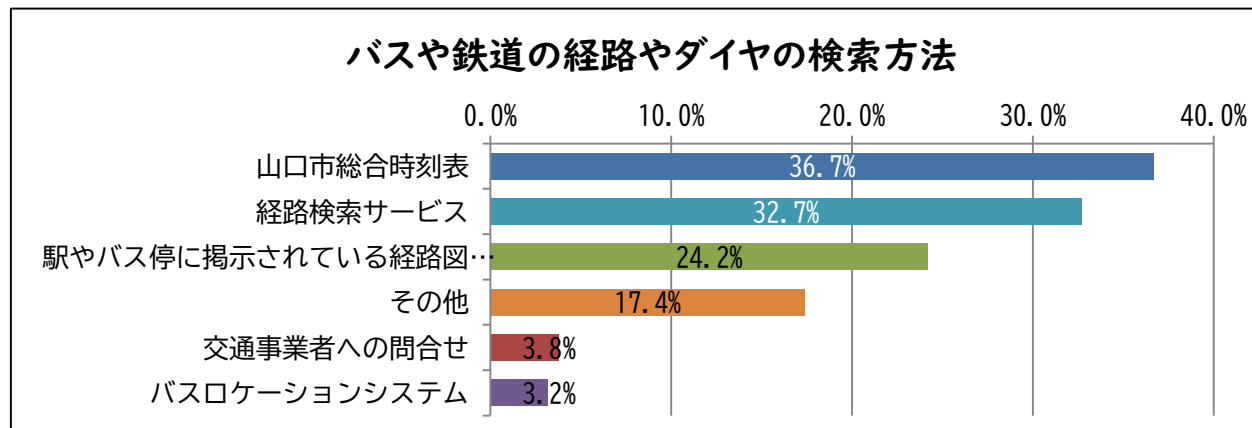
（資料：公共交通に関する市民アンケート（平成28年10月））

自動車等が運転できなくなった場合に、路線バス等を「利用しようと思う」方の割合が、全体で8割を超え、前回調査から9.4ポイント増加しています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 バスや鉄道の経路やダイヤの検索方法【新規】

問7「バスや鉄道の経路やダイヤを調べる際、どのように調べますか。」

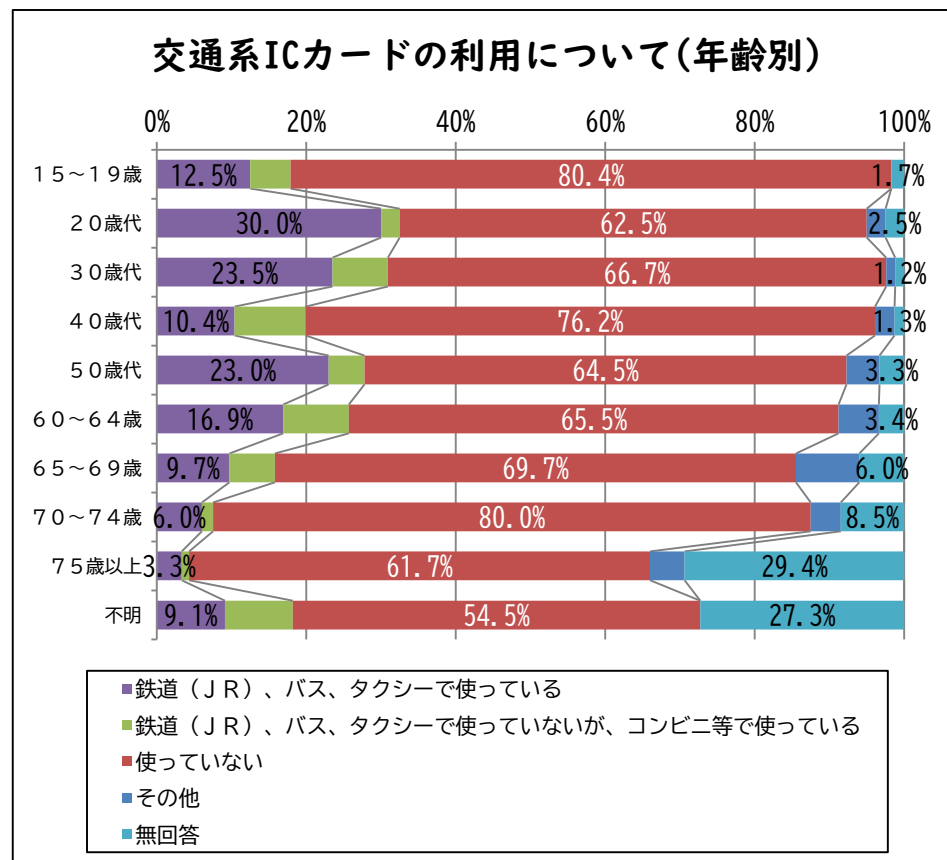
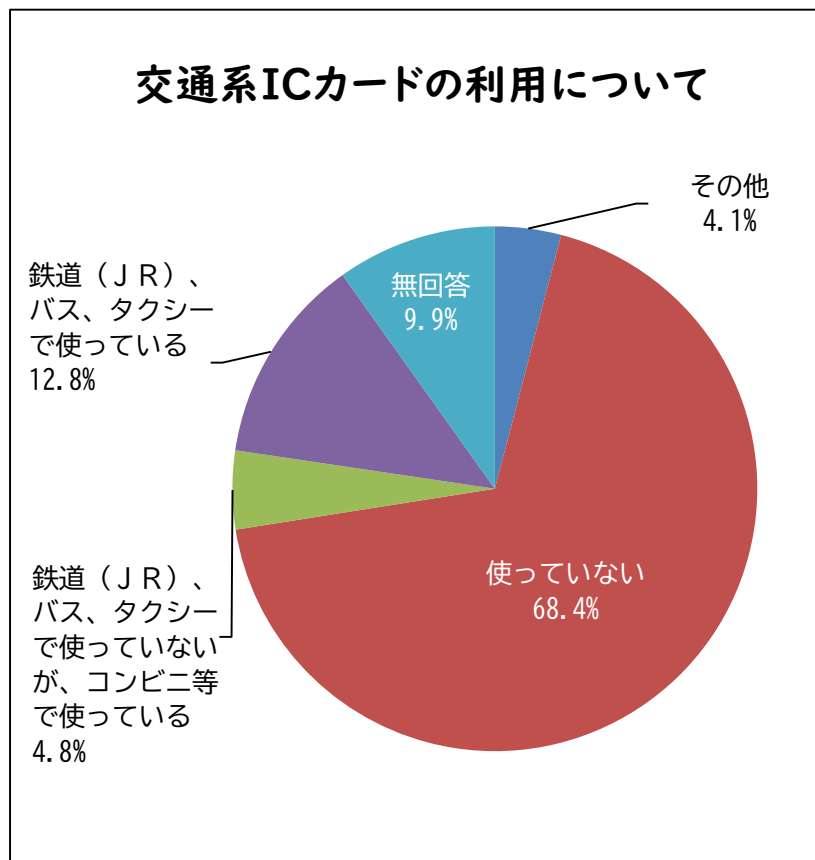


全体としては「山口市総合時刻表」の割合が高く、特に75歳以上の方では、5割を占めています。20歳代では「経路検索サービス」の割合が5割を占めています。

2 公共交通に関する市民アンケート調査集計結果（速報版）

（3）集計結果 交通系ICカードの利用について **【新規】**

問8「交通系ICカードを利用していますか。」



交通系ICカードを「使っていない」方が約7割を占めています。年齢別では、20歳代の3割の方が公共交通機関で利用されています。

3 推進施策の検討

(1) 市民交通計画の施策体系

1	マイカーに頼り過ぎない交通まちづくりの推進
	(1)マイカーに頼り過ぎない意識づくり
	①公共交通を育て支える意識の啓発
	②ノーマイカーの推進
	(2)公共交通の優先性の確保
	①公共交通優先エリアの設定
	②公共交通優先レーン・優先信号の充実
	③バスベイ型停留所の充実
2	利用しやすい公共交通環境の整備
	(1)利用者の視点に立ったサービスの向上
	①利用しやすいバス路線網の確立(バス路線の再編)
	②バスロケーションシステムの導入
	③交通系ICカードの導入
	④利用しやすい運賃の設定
	⑤利用しやすいタクシー制度の調査研究
	⑥わかりやすい公共交通情報の提供
	⑦バリアフリー車両の導入
	(2)待合・乗継環境の向上
	①待合・乗継環境の整備
	②駅の快適性向上

3	日常生活を支える持続可能な生活交通の確保
	(1)コミュニティ交通の確保と取組支援
	①コミュニティ交通の運行
	②コミュニティ交通運営ガイドラインの作成
	③交通アドバイザーの派遣
	④地域の交通を考える「話し合い」の支援
	(2)公共交通機関の維持・確保
	①客貨混載の調査研究
	②運転手の確保
	③鉄道の利用促進
	(3)誰もが気軽に外出できる輸送サービスの提供
	①福祉制度による移動手段の確保
	②利用しやすい運賃の設定(再掲2-(1)-④)
	③運転免許自主返納者の公共交通利用支援
4	豊かな暮らしと交流のまちづくりに寄与する公共交通網の構築
	(1)公共交通網の構築
	①公共交通体系に沿ったバス路線網の構築(バス路線の再編)
	②山口都市核におけるバス交通の結節点の調査研究
	③コミュニティバスの交通体系に沿った見直し
	④生活バスの維持確保
	(2)交流やにぎわいの創出
	①来訪者が利用しやすい交通環境の整備
	②公共交通の活用によるおでかけの促進

3 推進施策の検討

(2) 課題と推進施策

1-(1) マイカーに頼り過ぎない意識づくり (①公共交通を育て支える意識の啓発)

現 状

これまでも本市では、ノーマイカーデーの取組をはじめ、学校などを対象としたバスの乗り方教室の実施や、身近に公共交通に触れ合える機会を創出するための「公共交通ふれあいフェスタ」の開催、その他様々な取組を展開してきましたが、この度の市民アンケート調査の結果では、路線バスの利用頻度について、利用していない人が約7割となっており、利用しない理由として8割以上の人が自動車で移動できるためと答えられており、引き続きマイカー依存が続いている状況となっています。

さらに、コロナ禍の影響により急激に減少した公共交通利用者数は、新しい生活様式の定着などにより、コロナ禍前の水準まで利用者の回復が見込めない状況です。



バスの乗り方教室



公共交通ふれあいフェスタ



地域検討会



ノーマイカーの促進

3 推進施策の検討

(2) 課題と推進施策

課題	課題解決に向けた推進施策
<p>▶ 公共交通を利用するきっかけづくり</p> <p>アンケート調査では、年間を通じて公共交通を利用していない方が、路線バスで約71%、鉄道で約57%となっており、こうした、マイカーでの移動に依存した状況がこのまま続けば、負のスパイラルにより公共交通の利便性はさらに低下してしまう恐れがあります。こうした状況を招く前にみんなで危機感を共有し、公共交通を育て、社会全体で支えていく意識を持つことが求められています。</p> <p>とりわけ、日常生活の中で公共交通をほとんど利用されない方々に対して、移動の目的地やその理由にもよりますが、「たまには公共交通を使ってみよう」と思っていたり、取組が必要と考えられます。</p> <p>公共交通を日常の移動手段の一つとして選択肢に加えてもらうためには、公共交通に乗るきっかけづくりや動機づけが求められています。</p>	<p>▷ モビリティ・マネジメントの実施</p> <p>【拡】 子育て世代や市内事業者、経済団体など、対象を明確にして、セミナーや乗車体験等を実施する「モビリティ・マネジメント」を実施し、公共交通を利用するきっかけづくりを行います。これにより、マイカーだけでなく、上手に公共交通を利用することの習慣化を促していきます。</p> <p>▷ ノーマイカーの推進</p> <p>【拡】 公共交通の利用促進・確保維持、二酸化炭素排出量の削減、交通渋滞の緩和、事故の防止に向けたノーマイカー通勤の習慣化、拡大を目的に、市内事業者や商工団体等との連携により、ノーマイカーデーを実施します。</p> <p>実施に際しては、なるべく多くの方に参加してもらうため、参加への意識を高めるきっかけづくり、動機づけや、参加しやすい環境の構築を進めます。</p>

3 推進施策の検討

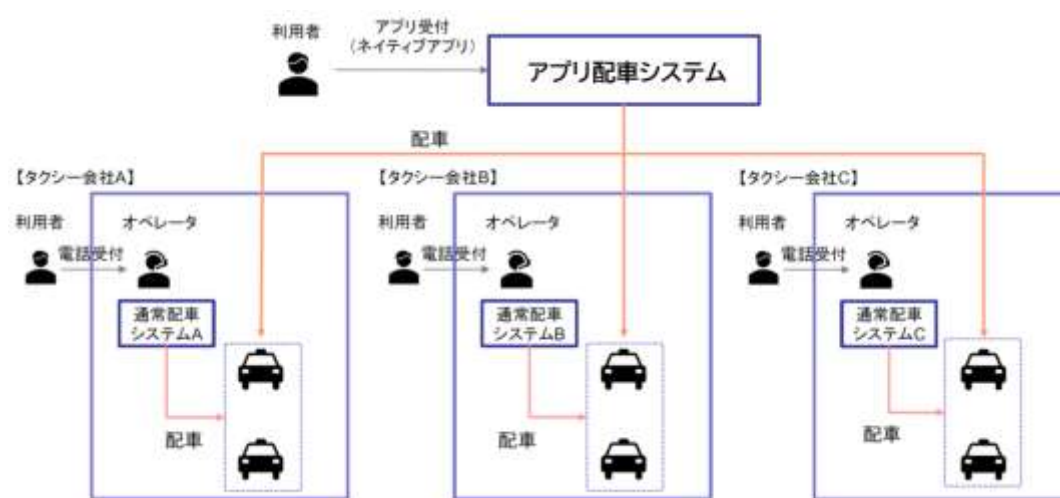
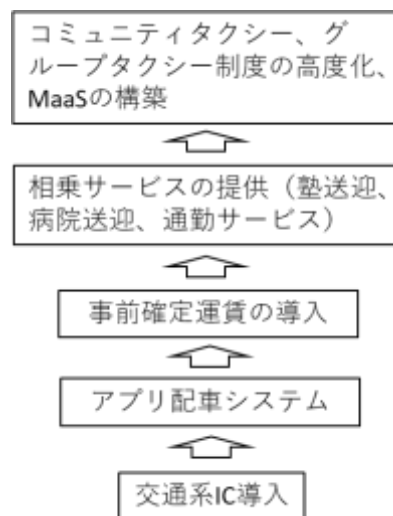
(2) 課題と推進施策

2-(1) 利用者の視点に立ったサービスの向上 (⑤利用しやすいタクシー制度の調査研究)

現
状

運転士不足等により夜間の配車が困難になりつつあるタクシー業界において、いわゆるタクシー配車アプリなどの先進DX技術の導入により、より効率的、効果的な交通施策を図っていくことが求められています。

将来的には、コミュニティタクシー、グループタクシー制度の高度化やMaaSの構築など、タクシー関連サービスの多様化を図り、市民の利便性向上はもちろん公共交通ネットワークの充実や新たなタクシー需要の開拓などに繋げていけるような仕組みの展開が期待されます。



3 推進施策の検討

(2) 課題と推進施策

課題

▶ DXを通じた利便性の向上

タクシーを利用する際には、多くの場合、電話などにより手配する必要があります。その際には、利用者からは各社の配車の状況が分からないため、車両が到着するまでどれだけ待つのか分かりませんでした。

こうした中、最近では、都市部を中心にスマートフォンを活用した配車アプリによる手配の割合が高まってきています。配車アプリを使うことで、近くを走っている車両を手配できたり、手配した車両の状況が確認できたりするなど利用者の利便性が大きく向上します。

合わせて、夜間のタクシー需要に対して供給が追いついていない状況が本市でも見られ、これら状況の改善・解決を図っていく必要があります。

また、運転士不足を解決するためにも、車両管理システムやデジタル日報により業務の効率化を図るなど、タクシー業界におけるDXを通じた業務改善を更に進めていくことが求められています。

課題解決に向けた推進施策

▶ 共同配車アプリの導入

【新】 スマートフォンを活用し、手軽にタクシーを呼び出すことができる「タクシー共同配車アプリ」の導入を進め、夜間需要への対応など、利用者の利便性向上を図ります。

▶ 利用しやすいタクシー制度の調査研究

【拡】 先進DX技術の導入による事前確定運賃や相乗りサービスへの展開や、子育て支援やマタニティに対応したサービス、習い事送迎など、共同配車アプリを活用しながら新たな取組についても検討を進めます。

3 推進施策の検討

(2) 課題と推進施策

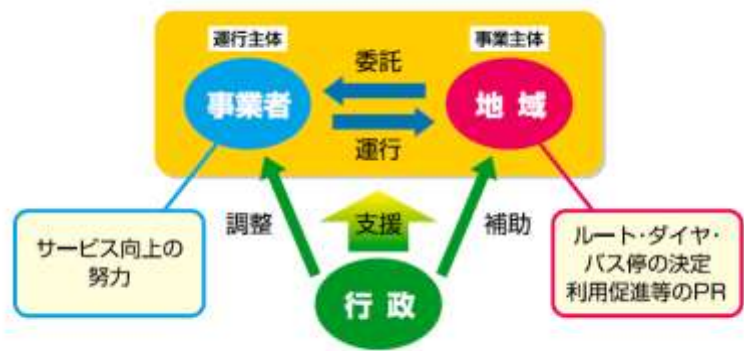
3-(1) コミュニティ交通の確保と取組支援 (①コミュニティ交通の運行)

現
状

コロナ禍を契機として、コミュニティ交通の重要性が改めて認識される一方で、地域における人口減少も相まって、利用者は大幅に減少しています。

タクシーの運賃改定により、コミュニティタクシーの運行経費は増加し、地域の負担も大きくなっています。

こうした中、本市では、交通不便地域における交通手段を確保・維持するため、グループタクシー、お出かけサポートタクシー制度を展開していますが、今後もコミュニティ交通を持続可能で地域に適した形で継続していくために、地域の皆様とともにデマンド交通や自家用有償運行の調査・研究も進めているところです。



地域主体的による
コミュニティタクシーのしくみ



グループタクシー

3 推進施策の検討

(2) 課題と推進施策

課題	課題解決に向けた推進施策
<p>▶ 地域主体のコミュニティ交通の確保・維持 市内の公共交通利用者数は、人口減少やマイカー依存などにより、近年減少傾向で推移しています。こうした中、コロナ禍においては移動や人との接触を極力避けるような「新たな生活様式」の広がりにより、公共交通機関全体の利用が減り、公共交通事業者の経営環境に大きな影響を与えました。</p> <p>地域主体のコミュニティタクシーの運行においても、同様に利用者の減少により乗車率が下がり、運賃収入や補助金、各地域の協賛金等だけでは事業費を賄いきれない地域もありました。</p> <p>また、本年8月にはタクシー料金が値上げ改定され、ますます影響が大きくなっております。</p> <p>地域内をきめ細かく運行するコミュニティタクシーは、地域内で必要としている高齢者などの利用者がたくさんいらっしゃいます。こうしたことから、持続可能な形で運行していく必要があります。</p>	<p>▶ 持続可能なコミュニティタクシーの継続 【新】現在運行されている8地域において、今後も地域主体による運行が継続できるよう支援するとともに、新たな地域の参入を促進します。</p> <p>▶ 新たなコミュニティ交通の検討 【拡】コミュニティタクシーの導入が難しい地域においては、定時定路線の運行にこだわることなく、地域のニーズに応じ、デマンドや区域運行をはじめ、自家用有償運行やボランティア輸送など、新たなコミュニティ交通の取組について調査・研究を進めます。</p> <p>なお、検討にあたっては、地元の交通事業者へ運行管理や車両整備管理を委託するなど、事業者協力型自家用有償旅客運送についても研究していきます。</p>

3 推進施策の検討

(2) 課題と推進施策

3-(2) 公共交通機関の維持・確保 (②運転士の確保)

現
状

公共交通の担い手である路線バスやタクシーの運転士について、運転士不足に加えて、運転士が高齢化しています。人材の不足が深刻化しており、今後の継続的な事業運営の維持について懸念されます。

こうした中、本市では、担い手確保のきっかけとなるイベントや事業説明会を実施してきました。



運転士体験会の様子



運転士 求む!!!
バス 運転士体験会 & 就業説明フェア
参加費 無料
日時 令和4年10月9日 11:00~17:00
会場 山口県沼田自動車学校
バス・タクシー 運転士が足りません!!
バス・タクシー 運転士の仕事に興味のある方
ぜひ参加して、ぜひお話し合いを!!
山口県公共交通委員会

3 推進施策の検討

(2) 課題と推進施策

課題	課題解決に向けた推進施策
<p>▶ 運転士不足</p> <p>バス、タクシー運転士の高齢化、他の業界への離職などにより、運転士不足が深刻な状況となっています。本市においても、本年4月現在、バス運転士が66人、タクシー運転士が79人不足している状況となっています。</p> <p>令和6年4月1日以降、「2024問題」とも言われる自動車運転業務の年間の時間外労働時間の上限が960時間までに制限されることによって更に状況が深刻化することが懸念されています。</p> <p>現在の運転士不足の状況が続くと、路線の維持、継続的な事業運営が困難な事態となることも考えられることから、運転士不足への対応が喫緊の課題となっています。</p>	<p>▷ 運転士の確保</p> <p>【拡】 公共交通の運転に関心を持ち、就業へのきっかけづくりとするため、新規就労者確保のためのイベントや事業説明会を近隣自治体と連携し開催します。また、定住施策と連動した取組について検討します。</p> <p>▷ 自動運転技術の導入</p> <p>【新】 運転士不足を解消する手段の一つとして、自動運転技術の導入について研究していきます。</p>

3 推進施策の検討

(2) 課題と推進施策

3-(2) 公共交通機関の維持・確保 (③鉄道の利用促進)

現
状

基幹交通の主役として鉄道は、都市核、地域拠点の広域移動を支える重要な役割を担っているところですが、令和4年4月にJR西日本から「ローカル線に関する課題認識」として、赤字ローカル線の輸送密度、収支率等が公表されました。

市内ではJR山口線の宮野駅以北が輸送密度1000人/日未満となっています。

こうした中、本市では、令和5年度から日常利用促進のため、阿東・徳地地域の高齢者を対象に特急料金支援を始めました。



「在来線 線区別利用状況(2019年度実績)」(JR西日本)



JR山口線

3 推進施策の検討

(2) 課題と推進施策

課題	課題解決に向けた推進施策
<p>▶ 鉄道の維持</p> <p>鉄道は本市の基幹交通として、市民の日常生活や広域移動に重要な役割を果たしています。</p> <p>また、山口線では、S Lやまぐち号が運行するなど、観光の活性化や交流人口の拡大に繋がる必要不可欠な路線となっています。</p> <p>こうした中、本年4月に地域交通法が改正されました。この中では、鉄道の大量輸送機関としての特性を発揮することが困難な区間について、鉄道輸送の維持・高度化または他の輸送モードへの転換といったローカル鉄道の再構築に関する仕組みが創設・拡充されたところです。</p> <p>本市では、山口線の宮野駅以北の区間が赤字区間としてJ R西日本から公表されており、今後、本市においても、鉄道の維持・利用促進に向けた取組が求められています。</p>	<p>▶ 鉄道の利用促進</p> <p>【拡】山口県、沿線自治体と連携し、地域の魅力発信に取り組むとともに、地域住民の恒常的な利用を促す事業を実施し、鉄道の維持・利用促進を図ります。</p> <p>新駅の設置を含む鉄道の更なる利用促進に向けた調査・研究を進め、既存の駅舎及び駅舎周辺施設の整備や他の輸送モードを含む公共交通ネットワークの再構築を進めます。</p> <p>山口線沿線の地域住民と連携し、駅舎の維持管理や周辺環境整備等を通じて、地域住民の山口線に対する愛着の醸成と鉄道利用の促進を図ります。</p> <p>▶ 公共交通機関の利便性の向上</p> <p>【新】鉄道事業者とバス事業者の共同経営など、複数の交通モードを横断的に活用できる手法の実現可能性の研究を進めます。</p>

3 推進施策の検討

(2) 課題と推進施策

4-(1) 公共交通網の構築

(③コミュニティバスの交通体系に沿った見直し)

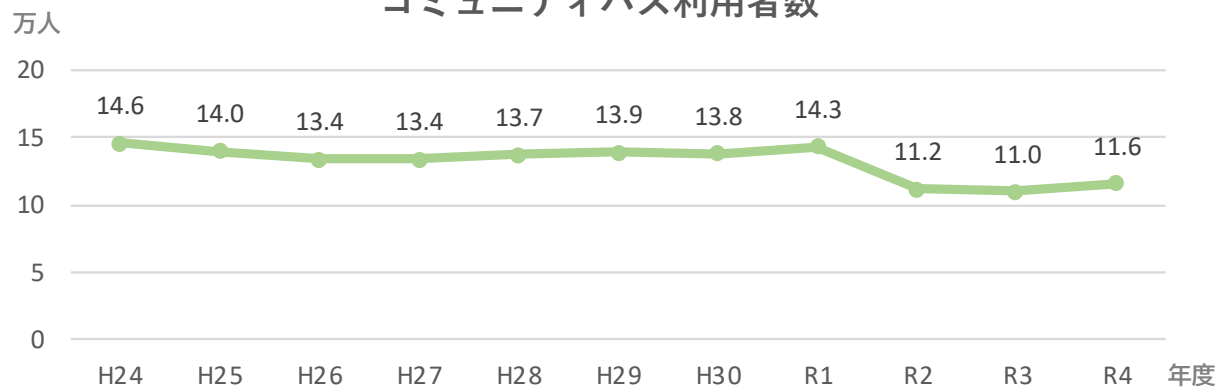
現
状

平成13年10月から実証運行を開始したコミュニティバスは、定額運賃による実証運行を重ねてきたところです。

この間、コロナ禍による利用者減少もありましたが、そうした中でも一定の需要があり市民生活にとって欠くことのできない路線として定着しています。

こうしたことから、本市では本市の交通体系に沿った形で路線バス化へ向けた調整・研究を行っているところです。

コミュニティバス利用者数



3 推進施策の検討

(2) 課題と推進施策

課題	課題解決に向けた推進施策
<p>▶ コミュニティバスの見直し（位置づけ） コミュニティバスは平成13年から実証運行を開始し、今日まで継続し、市民の足として一定の役割を果たしています。</p> <p>しかし、その実態としては基幹交通である路線バスに近い運行形態となっており、また市民生活にも定着していることから、実証運行から路線バス化に向け協議を進める必要があります。</p>	<p>▷ コミュニティバスの交通体系に沿った見直し コミュニティバスは、既に市民生活に定着しており、実証運行から基幹交通である「都市核地域拠点間幹線」、「都市拠点内交通」として、路線バスへ移行します。</p>

4 今後の予定

(1) 策定スケジュール

第1回（5月29日）中間見直しにあたって

第2回（8月31日）検討事項①～⑥について議論 新たな視点の追加

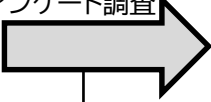
第3回（11月頃）計画見直し（たたき台）について協議

第4回（12月頃）計画見直し（素案）について協議

第5回（1月頃）計画見直し最終案の確認

パブリックコメントの実施（2月）

計画策定（3月）

令和5年度											
R5 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6 1月	2月	3月
	● 第1回 委員会	アンケート調査 		● 第2回 委員会			● 第3回 委員会	● 第4回 委員会	● 第5回 委員会	パブリック コメント	● 計画策定